

高等学校 令和5年度（3学年用） 教科 理科 科目 化学基礎

教科：理科 科目：化学基礎 単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年 4 組

使用教科書：（ 化基317 高校化学基礎新訂版（東京書籍） ）

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験を行う

【思考力、判断力、表現力等】自然の事物・現象に対する化学の基本的な概念や原理法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、科学的に探究する能力と態度を育てる

科目 化学基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
自ら考え、見通しをもって主体的に観察、実験を行い、化学の原理・法則を見出すとともに基本的な概念や探究する技能を身につけている。	身近な物質とその変化から問題を見出し、研究する過程を通して、化学的に正しく判断し、的確に表現できる。	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への関心を高め、それらを積極的に探究しようとする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	序章 化学と人間生活 ・物質の製造 ・物質の利用 ・物質の性質と役割 【知識及び技能】 化学変化を利用し、つくられる物質の種類や役割を学ぶ 【思考力、判断力、表現力等】 物質のはたらきの有用性を利用し、社会や日常で活用される方法や役割について考える。 【学びに向かう力、人間性等】 日常生活や社会を支える物質の利用とその製造の例を通して、化学に対する興味・関心を高める。	指導事項 ・オリエンテーション ・金属やプラスチックなど生活に根づく物質がどのように作られているかに着目し、その利用法や物質にはたらく作用を中心に、興味を持たせる。 教材【教科書】	【知識・技能】 金属・プラスチックの製造や再利用、洗剤や食品添加物の有用性と危険性といった知識について身につけており、物理的性質・化学的性質を調べることができる。 【思考・判断・表現】 物質のはたらきの有用性や危険性を適切な評価に基づき、化学が果たしている役割について考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常生活を支える物質に関心を持ち、化学が社会や生活に果たしている役割について意欲的に探究しようとしている。	○	○	○	3
	1章 物質の構成 第1節 物質の探究 第2節 物質の構成粒子 【知識及び技能】 粒子の熱運動と三態、および物質の分離、精製方法を学ぶ 【思考力、判断力、表現力等】 物質の状態変化が起こるとき、粒子間にはたらく力の関係や、物質の分離などから単体や混合物、化合物について考える。 【学びに向かう力、人間性等】 物質の構造や性質、また粒子間にはたらく力に関する事象を通して、化学に対する興味・関心を高める。	指導事項 ・物質が原子からできていることから、物質の構成粒子やその作用について取り扱い、物質の状態によって変わる粒子の在り方をイメージできるよう可視化する。 教材【教科書・ワークシート】	【知識・技能】 化学的に探究する方法を理解するとともに粒子の熱運動と三態との関係を理解し、物質についての微視的な見方や考え方を身につけている。 炎色反応などの元素の確認実験など、基本的な実験を安全に行うことができる。 原子の構造についての知識を身につけ災害各電子数などを理解している。 【思考・判断・表現】 実験から単体や化合物、混合物について考察することができる。 物質の状態変化から、粒子の熱運動と粒子間に働く力を説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 物質の構造や性質、粒子に働く力に関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。	○	○	○	9
	定期考査			○	○		1
	1章 物質の構成 第2節 物質の構成粒子 2章 物質と化学結合 第1節 イオン結合 第2節 共有結合と分子間力 第3節 金属結合 【知識及び技能】 粒子の結合や物質の基本的な性質を学ぶ 【思考力、判断力、表現力等】 様々な結合で構成される物質を、その結合の種類と関連付けて考える。 【学びに向かう力、人間性等】 身近な例から物質が様々な構成からなることを通して、化学に対する興味関心を高める。	指導事項 ・本章では多くの結合が学習事項としてあり、各結合の違いと作り方で内容が混ざる可能性がある。よって繰り返し時間をかけることで本学習の定着を図るとともに、結合を含めた結晶の性質などを学ぶ。 教材【教科書・ワークシート】	【知識・技能】 物質を構成する粒子の結合について、基本的な概念や原理・法則を理解し、身につけている。 融点や沸点、溶解性、電気伝導性を確かめる実験を通して、物質の基本的な性質を調べることができる。 【思考・判断・表現】 イオン結合、金属結合、共有結合でできた物質について、その性質を結合の種類と関連付けて考察することができる。または、導いた考えを的確に表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 身近な物質が原子、分子、イオンなどの構成粒子からなっていることを探求しようとする。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	2章 物質と化学結合 第4節 粒子の結合と結晶		【知識・技能】 原子量、分子量、式量と物質量の知識を身につけている。 表や図のデータなどから物質の性質を分析できる能力を身につけ、自ら考えを導き出したり、実験報告書を作成したできる。 【思考・判断・表現】 原子量・分子量・式量と物質量の定義を理解し、物質量を用いた基本的な計算ができ、化学変化には一定の量的関係があることを考察できる 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	12

			代表的な物質の原子量・分子量・式量などの物質量の基本事項や、濃度との関係に関連付けて考察しようとするとともに、意欲的にそれらを探究しようとする。				
	定期考査			○	○		1
2 学 期	3章 物質の変化 第1節 物質量と化学反応式 第2節 酸と塩基 【知識及び技能】 物質量や式量等、酸・塩基の定義の知識を学ぶとともに、実験から実験器具の取り扱いができ、表やグラフの作成の完成を目指す。 【思考力、判断力、表現力等】 式量や物質量を化学反応式で表し、化学反応の量的関係を考える。また、酸化還元反応の共通性と日常の現象を関連付けて考える。 【学びに向かう力、人間性等】 化学変化や酸・塩基の中和反応、酸化還元反応を日常生活を通して、化学に対する興味・関心を高める。	指導事項 ・分子量・式量・物質量の意味とmolを含めた計算を全員が習得できるよう、知識の定着と思考力を磨く。 教材【教科書・ワークシート】	【知識・技能】 酸塩基指示薬やpHメータなどが扱え、身近な物質のpH測定方法を習得している。 酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて酸・塩基反応を捉えることができ、さらに中和滴定の量的関係を理解している。 実験器具の取り扱いができると同時に、酸・塩基の量的関係から濃度未知の酸や塩基の濃度を求める技能を修得している。 【思考・判断・表現】 酸・塩基の強弱とpHの観察、実験などを通して、科学的に考察でき、導き出した考えを的確に表現できる。 酸・塩基の定義を理解し、酸・塩基反応および中和反応を考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 酸、塩基に関心をもち、それらを日常生活に関連付けて意欲的に探究しようとする。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
3 学 期	総合演習						14
				○	○	○	1
							合計
							70

高等学校 令和5年度（3学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教 科： 保健体育 体育 科 目： 体育 単位数： 3 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 3 組

使用教科書： （ 大修館書店 現代高等保健体育 ）

教科 保健体育 の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】 基本的な動作の習得と協議の方法を理論を通じて身に付ける
- 【思考力、判断力、表現力等】 競技の特性を理解したうえで、ゲームの運営を含め自己の役割を見出すことの出来るようにする
- 【学びに向かう力、人間性等】 得意不得意に関わらず、積極的に取り組む姿勢を養う

科目 体育	の目標：
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
それぞれの競技の特性を理解し、基礎的動作の習得とゲームや試合の攻防を楽しむ態度を身に付ける。	それぞれの競技を実践する中で、何が必要何が足りないのかを常に考え行動できるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯体育に結び付くように、様々な種目を通じて自己の目標を設定し、積極的に取り組めるようにする。	

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	記録の向上や勝敗を競う楽しさ、喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高める。記録に挑戦する気持ちと、安全性に配慮することを身に付ける。	オリエンテーション 基礎体力作り体づくり運動(12月まで)	【知識・技能】 基本的な動作や方法の理解 【思考・判断・表現】 補強運動の工夫 【主体的に学習に取り組む態度】 種目への積極的な参加	○	○	○	10
	ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開すること。ベース型では、個々の役割について理解し連携を図ることができるように展開すること。 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの特徴などについて理解する。	ネット型：バドミントン・バレーボール ベースボール型：ソフトボール	【知識・技能】 各種目の基本動作のチェック 【思考・判断・表現】 ゲームの運営 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
	ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開すること。ベース型では、個々の役割について理解し連携を図ることができるように展開すること。 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの特徴などについて理解する。	ネット型：バドミントン・バレーボール ベースボール型：ソフトボール	【知識・技能】 基本的な動作や方法の理解 【思考・判断・表現】 補強運動の工夫 【主体的に学習に取り組む態度】 種目への積極的な参加	○	○	○	16
	武道では、伝統的な行動の仕方を大切に、相手を思いやり、自ら進んで技術の向上に向けて行動できるようにする。 ダンスでは、周りと協調して作品を制作することができるようにする。	剣道・柔道：礼法・基本動作 ダンス：基本的動き・作品制作	【知識・技能】 礼法の正確性 基本動作の理 【思考・判断・表現】 対人動作の理解 【主体的に学習に取り組む態度】 作品制作への参加	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
2 学 期	ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開すること。ベース型では、個々の役割について理解し連携を図ることができるように展開すること。 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの特徴などについて理解する。	ベース型 ソフトボール 体育理論	【知識・技能】 基本的な動作や方法の理解 【思考・判断・表現】 ゲームの運営 【主体的に学習に取り組む態度】 種目への積極的な参加	○	○	○	16
	ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開すること。ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開すること。ベース型では、個々の役割について理解し連携を図ることができるように展開すること。	ネット型対人 卓球 ル 型 バスケットボール ベース型 ソフトボール	【知識・技能】 基本的な動作や方法の理解基本動作のチェック 【思考・判断・表現】 ゲームの運営・チームの役割の理解 【主体的に学習に取り組む態度】 種目への積極的な参加	○	○	○	12
3 学 期	自己のスピードを維持できるフォームでベースを守りながら、一定の距離を走りとおし、タイムを短縮したり競争したりできるようにする。	個人 陸上競技(長距離)	【知識・技能】 基本的な動作や方法の理解 【思考・判断・表現】 フォームの研究 【主体的に学習に取り組む態度】 記録への挑戦	○	○	○	10
	自己のスピードを維持できるフォームでベースを守りながら、一定の距離を走りとおし、タイムを短縮したり競争したりできるようにする。	個人 陸上競技(長距離)	【知識・技能】 基本的な動作や方法の理解 【思考・判断・表現】 フォームの研究 【主体的に学習に取り組む態度】 記録への挑戦	○	○	○	11
							合計 105

年間授業計画

高等学校 令和5年度（3学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教 科： 保健体育 体育 科 目： 体育 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 4 組

使用教科書：（ 大修館書店 現代高等保健体育 ）

教科 保健体育 の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】 基本的な動作の習得と協議の方法を理論を通じて身に付ける
- 【思考力、判断力、表現力等】 競技の特性を理解したうえで、ゲームの運営を含め自己の役割を見出すことの出来るようにする
- 【学びに向かう力、人間性等】 得意不得意に関わらず、積極的に取り組む姿勢を養う

科目 体育	の目標：
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
それぞれの競技の特性を理解し、基礎的動作の習得とゲームや試合の攻防を楽しむ態度を身に付ける、	それぞれの競技を実践する中で、何が必要か何が足りないのかを常に考え行動できるようにする
	【学びに向かう力、人間性等】
	生涯体育に結び付くように、様々な種目を通じて自己の目標を設定し、積極的に取り組めるようにする

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	記録の向上や勝敗を競う楽しさ、喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高める。記録に挑戦する気持ちと、安全性に配慮することを身に付ける。	オリエンテーション 基礎体力作り体づくり運動(12月まで)	【知識・技能】 基本的な動作や方法の理解 【思考・判断・表現】 補強運動の工夫 【主体的に学習に取り組む態度】 種目への積極的な参加	○	○	○	6
	ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開すること。ベース型では、個々の役割について理解し連携を図ることができるように展開すること。 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの特徴などについて理解する。	ネット型：バドミントン・バレーボール ベースボール型：ソフトボール	【知識・技能】 各種目の基本動作のチェック 【思考・判断・表現】 ゲームの運営 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開すること。ベース型では、個々の役割について理解し連携を図ることができるように展開すること。 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの特徴などについて理解する。	ネット型：バドミントン・バレーボール ベースボール型：ソフトボール	【知識・技能】 基本的な動作や方法の理解 【思考・判断・表現】 補強運動の工夫 【主体的に学習に取り組む態度】 種目への積極的な参加	○	○	○	10
	武道(剣道)では、伝統的な行動の仕方を大切に、相手を思いやり、自ら進んで技術の向上に向けて行動できるようにする。 ダンスでは、周りと協調して作品を制作することができるようにする。	剣道：礼法・基本動作 ダンス：基本的動き・作品制作	【知識・技能】 礼法の正確性 基本動作の理 【思考・判断・表現】 対人動作の理解 【主体的に学習に取り組む態度】 作品制作への参加	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
2 学 期	ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開すること。ベース型では、個々の役割について理解し連携を図ることができるように展開すること。 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの特徴などについて理解する。	ベース型 ソフトボール 体育理論	【知識・技能】 基本的な動作や方法の理解 【思考・判断・表現】 ゲームの運営 【主体的に学習に取り組む態度】 種目への積極的な参加	○	○	○	8
	ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開すること。ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開すること。ベース型では、個々の役割について理解し連携を図ることができるように展開すること。	ネット型対人 卓球 ル型 バasketボール ベース型 ソフトボール	【知識・技能】 基本的な動作や方法の理解基本動作のチェック 【思考・判断・表現】 ゲームの運営・チームの役割の理解 【主体的に学習に取り組む態度】 種目への積極的な参加	○	○	○	8
3 学 期	自己のスピードを維持できるフォームでベースを守りながら、一定の距離を走りとおし、タイムを短縮したり競争したりできるようにする。	個人 陸上競技(長距離)	【知識・技能】 基本的な動作や方法の理解 【思考・判断・表現】 フォームの研究 【主体的に学習に取り組む態度】 記録への挑戦	○	○	○	8
	自己のスピードを維持できるフォームでベースを守りながら、一定の距離を走りとおし、タイムを短縮したり競争したりできるようにする。	個人 陸上競技(長距離)	【知識・技能】 基本的な動作や方法の理解 【思考・判断・表現】 フォームの研究 【主体的に学習に取り組む態度】 記録への挑戦	○	○	○	8
							合計 70

高等学校 令和5年度（3学年用） 教科 外国語 科目 コミュニケーション英語Ⅱ

教科： 外国語 科 目： コミュニケーション英語Ⅱ 単位数： 4 単位

対象学年組：第 3 学年 3 組～ 4 組

使用教科書：（ 数研出版 Revised COMET English Communication II ）

教科 外国語 の目標：

【知 識 及 び 技 能】英語でのコミュニケーションに必要な英文法の基礎を習得する。

【思考力、判断力、表現力等】英語で相手の考えを理解し、自分の考えを円滑に伝えられるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】相手と積極的に英語でコミュニケーションを図る意欲を育てる。

科目 コミュニケーション英語Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
英語を用いた言語活動を通して、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識及び技能を身に付ける。	情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることができる。	英語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 〔や〕	話 〔発〕	書					
	A 単元 Staying in Space 【知識及び技能】 動詞の目的語となるthat-節の基本的な用法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができる。 c. 動詞の目的語となるthat-節を用いて、正しい文を書くことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 宇宙に滞在することについて関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりしている。	・指導事項 that節 相手の発言を確かめる表現 ・教材 教科書、ワークブック	○	○		○		【知識及び技能】 動詞の目的語となるthat-節の基本的な用法を理解できた。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができた。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができた。 c. 動詞の目的語となるthat-節を用いて、正しい文を書くことができた。 【学びに向かう力、人間性等】 宇宙に滞在することについて関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりした。	○		○	15
	B 単元 Doraemon in the U.S. 【知識及び技能】 a. S＋V(want, etc.)＋O(人)＋to-不定詞の基本的な用法を理解している。 b. アニメやマンガ以外に海外で評価されている日本の文化にはどのようなものがあるかを知っている。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができる。 c. S＋V(want, etc.)＋O(人)＋to-不定詞を用いて、正しい文を書くことができる。 d. 「相手の情報・意見を聞く表現」として、How about you?を用いて、場面に合ったやり取りをすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 a. 『ドラえもん』の日米での違いについて関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりしている。 b. ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加しようとしている。	・指導事項 人に要求する表現 相手の情報、意見を聞く表現 ・教材 教科書、ワークブック	○	○			○	【知識及び技能】 a. S＋V(want, etc.)＋O(人)＋to-不定詞の基本的な用法を理解できた。 b. アニメやマンガ以外に海外で評価されている日本の文化にはどのようなものがあるかを知ることができた。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができた。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができた。 c. S＋V(want, etc.)＋O(人)＋to-不定詞を用いて、正しい文を書くことができた。 d. 「相手の情報・意見を聞く表現」として、How about you?を用いて、場面に合ったやり取りをすることができた。 【学びに向かう力、人間性等】 a. 『ドラえもん』の日米での違いについて関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとした。 b. ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加した。	○	○	○	15
	C 単元 Farm in the Sky 【知識及び技能】 a. 疑問詞＋to-不定詞の基本的な用法を理解している。 b. プレゼンテーションを行う際に有用ないくつかの表現について知っている。	・指導事項 「どのように（何を）～すればいいか」 言い直す表現 ・教材 教科書、ワークブック						【知識及び技能】 a. 疑問詞＋to-不定詞の基本的な用法を理解できた。 b. プレゼンテーションを行う際に有用ないくつかの表現について知ることができた c. シンガポールやその国の農業の問題点についての内容の知識を身に付ける。				

[illegible]

	知っている。 c. 働くことの意義や労働から得られる喜びにはどのようなものがあるかについて知っている。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができる。 c. 形式主語(It)を用いて、正しい文を書くことができる。 d. 「望みや気持ちを表す表現」として、feel like ～ingを用いて、場面に合ったやり取りをすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 a. 高校生レストラン「まごの店」やそこで働く生徒たちについて関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりしている。 b. ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加しようとしている。							ひにはどのようなものかめるかについて知ることができた。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができた。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができた。 c. 形式主語(It)を用いて、正しい文を書くことができた。 d. 「望みや気持ちを表す表現」として、feel like ～ingを用いて、場面に合ったやり取りをすることができた。 【学びに向かう力、人間性等】 a. 高校生レストラン「まごの店」やそこで働く生徒たちについて関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりした。 b. ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加した。				10
F 単元 Why Is It That Shape?	【知識及び技能】 a. 関係代名詞(what)の意味や用法を理解している。 b. 私たちがふだん使う製品の形状には、さまざまな工夫がされていることを知っている。 c. 身の回りのものの形の理由について、本文以外の例を知っている。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができる。 c. 関係代名詞(what)を用いて、正しい文を書くことができる。 d. 「理由を述べる表現」として、This is because ～.を用いて、場面に合ったやり取りをすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 a. さまざまなものの形やその形となった理由について関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりしている。 b. ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加しようとしている。	・指導事項 関係代名詞what 理由を述べる表現 ・教材 教科書、ワークブック						【知識及び技能】 a. 関係代名詞(what)の意味や用法を理解できた。 b. 私たちがふだん使う製品の形状には、さまざまな工夫がされていることを知ることができた。 c. 身の回りのものの形の理由について、本文以外の例を知ることができた。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができた。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができた。 c. 関係代名詞(what)を用いて、正しい文を書くことができた。 d. 「理由を述べる表現」として、This is because ～.を用いて、場面に合ったやり取りをすることができた。 【学びに向かう力、人間性等】 a. さまざまなものの形やその形となった理由について関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりした。 b. ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加した。				11
定期考査												1
G 単元 Fuji, a Dolphin With a New Fin	【知識及び技能】 a. 過去完了形(had＋過去分詞)の基本的な用法(大過去/継続/完了/経験)を理解している。 b. 水族館の飼育員や獣医の仕事についての知識がある。 c. 動物と人間が共存できる自然環境を守ることの大切さを知っている。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができる。 c. 過去完了形(had＋過去分詞)の基本的な用法(大過去/継続/完了/経験)を用いて、正しい文を書くことができる。 d. 「感想を尋ねる表現」として、How was ～? を用いて、場面に合ったやり取りをすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 a. イルカのフジや、フジを助けようとした人々について関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりしている。 b. ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加しようとしている。	・指導事項 過去完了 感想を尋ねる表現 ・教材 教科書、ワークブック						【知識及び技能】 a. 過去完了形(had＋過去分詞)の基本的な用法(大過去/継続/完了/経験)を理解できた。 b. 水族館の飼育員や獣医の仕事についての知識が身に付いた。 c. 動物と人間が共存できる自然環境を守ることの大切さを知ることができた。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができた。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができた。 c. 過去完了形(had＋過去分詞)の基本的な用法(大過去/継続/完了/経験)を用いて、正しい文を書くことができた。 d. 「感想を尋ねる表現」として、How was ～? を用いて、場面に合ったやり取りをすることができた。 【学びに向かう力、人間性等】 a. イルカのフジや、フジを助けようとした人々について関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりした。 b. ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加した。				10
H 単元 Do We Need That?	・指導事項							【知識及び技能】				

2 学 期		【知識及び技能】 a. 使役動詞(make/let/have)の基本的な用法を理解している。 b. 相手への配慮を示しながら、相手の意見に反対したり、異なる意見を述べたりする際に有用ないくつかの表現について知っている。 c. 外国の人からみた日本のよい点・悪い点について、いくつかの具体例を知っている。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができる。 c. 使役動詞(make/let/have)を用いて、正しい文を書くことができる。 d. 「相手の考えを尋ねる表現」として、What do you think of ~?を用いて、場面に合ったやり取りをすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 a. 身の回りのサービスやそれに対する日本と海外の考え方の違いについて関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりしている。 b. ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加しようとしている。	使役動詞 相手の考えを尋ねる表現 ・教材 教科書、ワークブック					a. 使役動詞(make/let/have)の基本的な用法を理解できた。 b. 相手への配慮を示しながら、相手の意見に反対したり、異なる意見を述べたりする際に有用ないくつかの表現について知ることができた。 c. 外国の人からみた日本のよい点・悪い点について、いくつかの具体例を知ることができた。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができた。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができた。 c. 使役動詞(make/let/have)を用いて、正しい文を書くことができた。 d. 「相手の考えを尋ねる表現」として、What do you think of ~?を用いて、場面に合ったやり取りをすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 a. 身の回りのサービスやそれに対する日本と海外の考え方の違いについて関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりした。 b. ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加した。	○	○	○	○	12
	定期考査			○	○			○		○	○	○	1
	I 単元 Changing Feelings	【知識及び技能】 a. 関係代名詞の継続用法の形や働きを理解している。 b. 考え方を変えてnegative thinkingから脱却する方法について、本文以外の例を知っている。 c. 感情をうまくコントロールすることやメンタルヘルスケアの重要性を知っている。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができる。 c. 関係代名詞の継続用法を用いて、正しい文を書くことができる。 d. 「同情する表現」として、That's too bad.を用いて、場面に合ったやり取りをすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 a. 感情と思考の関連性について関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりしている。 b. ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加しようとしている。	・指導事項 関係代名詞の継続用法 同情を表わす表現 ・教材 教科書、ワークブック					○	○	○	○	12	
J 単元 Ban Shigeru, Architect of Paper	【知識及び技能】 a. 関係副詞(when/where)の基本的な用法を理解している。 b. 災害時の被災地支援に関し、さまざまな取り組みの例や問題点につ	・指導事項 関係副詞 計画を伝える表現 ・教材 教科書、ワークブック											

[illegible]

高等学校 令和5年度（3学年用） 教科 外国語 科目 コミュニケーション英語Ⅲ
 教 科： 外国語 科 目： コミュニケーション英語Ⅲ 単位数： 4 単位
 対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 2 組
 使用教科書： （ 第一学習社 Viva! English Communication Ⅲ ）
 教科 外国語 の目標：

- 【知識及び技能】英語でのコミュニケーションに必要な英文法の基礎を習得する。
 【思考力、判断力、表現力等】英語で相手の考えを理解し、自分の考えを円滑に伝えられるようにする。
 【学びに向かう力、人間性等】相手と積極的に英語でコミュニケーションを図る意欲を育てる。

科目 コミュニケーション英語Ⅲ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
英語を用いた言語活動を通して、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識及び技能を身に付ける。	情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることができる。	英語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 【や 】	話 【発 】	書					
A 単元 Lesson1～2 【知識及び技能】 動詞の目的語となるthat-節の基本的な用法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができる。 c. 動詞の目的語となるthat-節を用いて、正しい文を書くことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 宇宙に滞在することについて関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりしている。	・指導事項 that節 相手の発言を確かめる表現 ・教材 教科書、ワークブック	○	○		○		【知識及び技能】 動詞の目的語となるthat-節の基本的な用法を理解できた。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができた。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができた。 c. 動詞の目的語となるthat-節を用いて、正しい文を書くことができた。 【学びに向かう力、人間性等】 宇宙に滞在することについて関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりした。	○		○	13	
B 単元Lesson3～4 【知識及び技能】 a. S+V(want, etc.)+O(人)+to-不定詞の基本的な用法を理解している。 b. アニメやマンガ以外に海外で評価されている日本の文化にはどのようなものがあるかを知っている。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができる。 c. S+V(want, etc.)+O(人)+to-不定詞を用いて、正しい文を書くことができる。 d. 「相手の情報・意見を聞く表現」として、How about you?を用いて、場面に合ったやり取りをすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 a. 『ドラえもん』の日米での違いについて関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりしている。 b. ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加しようとしている。	・指導事項 人に要求する表現 相手の情報、意見を聞く表現 ・教材 教科書、ワークブック	○	○		○		【知識及び技能】 a. S+V(want, etc.)+O(人)+to-不定詞の基本的な用法を理解できた。 b. アニメやマンガ以外に海外で評価されている日本の文化にはどのようなものがあるかを知ることができた。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができた。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができた。 c. S+V(want, etc.)+O(人)+to-不定詞を用いて、正しい文を書くことができた。 d. 「相手の情報・意見を聞く表現」として、How about you?を用いて、場面に合ったやり取りをすることができた。 【学びに向かう力、人間性等】 a. 『ドラえもん』の日米での違いについて関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとした。 b. ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加した。	○	○	○	12	
C 単元 Lesson5～6 【知識及び技能】 a. 疑問詞+to-不定詞の基本的な用法を理解している。 b. プレゼンテーションを行う際に有用ないくつかの表現について知っている。	・指導事項 「どのように（何を）～すればいいか」 言い直す表現 ・教材 教科書、ワークブック						【知識及び技能】 a. 疑問詞+to-不定詞の基本的な用法を理解できた。 b. プレゼンテーションを行う際に有用ないくつかの表現について知ることができた c. シンガポールやその国の農業の問題点についての知識を身に付けた。					

[illegible]

	【知識及び技能】 a. 関係代名詞(what)の意味や用法を理解している。 b. 私たちがふだん使う製品の形状には、さまざまな工夫がされていることを知っている。 c. 身の回りのものの形の理由について、本文以外の例を知っている。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができる。 c. 関係代名詞(what)を用いて、正しい文を書くことができる。 d. 「理由を述べる表現」として、This is because ～.を用いて、場面に合ったやり取りをすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 a. さまざまなものの形やその形となった理由について関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりしている。 b. ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加しようとしている。	関係代名詞what 理由を述べる表現	・教材 教科書、ワークブック						a. 関係代名詞(what)の意味や用法を理解できた。 b. 私たちがふだん使う製品の形状には、さまざまな工夫がされていることを知ることができた。 c. 身の回りのものの形の理由について、本文以外の例を知ることができた。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができた。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができた。 c. 関係代名詞(what)を用いて、正しい文を書くことができた。 d. 「理由を述べる表現」として、This is because ～.を用いて、場面に合ったやり取りをすることができた。 【学びに向かう力、人間性等】 a. さまざまなものの形やその形となった理由について関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりした。 b. ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加した。					11
定期考査														1
G 単元 Lesson13～14 With a New Fin	【知識及び技能】 a. 過去完了形(had+過去分詞)の基本的な用法(大過去/継続/完了/経験)を理解している。 b. 水族館の飼育員や獣医の仕事についての知識がある。 c. 動物と人間が共存できる自然環境を守ることの大切さを知っている。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができる。 c. 過去完了形(had+過去分詞)の基本的な用法(大過去/継続/完了/経験)を用いて、正しい文を書くことができる。 d. 「感想を尋ねる表現」として、How was ～?を用いて、場面に合ったやり取りをすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 a. イルカのフジや、フジを助けようとした人々について関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりしている。 b. ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加しようとしている。	・指導事項 過去完了 感想を尋ねる表現	・教材 教科書、ワークブック						【知識及び技能】 a. 過去完了形(had+過去分詞)の基本的な用法(大過去/継続/完了/経験)を理解できた。 b. 水族館の飼育員や獣医の仕事についての知識が身に付いた。 c. 動物と人間が共存できる自然環境を守ることの大切さを知ることができた。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができた。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができた。 c. 過去完了形(had+過去分詞)の基本的な用法(大過去/継続/完了/経験)を用いて、正しい文を書くことができた。 d. 「感想を尋ねる表現」として、How was ～?を用いて、場面に合ったやり取りをすることができた。 【学びに向かう力、人間性等】 a. イルカのフジや、フジを助けようとした人々について関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりした。 b. ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加した。					10
H 単元 Lesson15～16	【知識及び技能】 a. 使役動詞(make/let/have)の基本的な用法を理解している。 b. 相手への配慮を示しながら、相手の意見に反対したり、異なる意見を述べたりする際に有用ないくつかの表現について知っている。 c. 外国の人からみた日本のよい点・悪い点について、いくつかの具体例を知ることができた。	・指導事項 使役動詞 相手の考えを尋ねる表現	・教材 教科書、ワークブック						【知識及び技能】 a. 使役動詞(make/let/have)の基本的な用法を理解できた。 b. 相手への配慮を示しながら、相手の意見に反対したり、異なる意見を述べたりする際に有用ないくつかの表現について知ることができた。 c. 外国の人からみた日本のよい点・悪い点について、いくつかの具体例を知ることができた。					

2 学 期		が、悪い点について、いいところの具体例を知っている。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができる。 c. 使役動詞(make/let/have)を用いて、正しい文を書くことができる。 d. 「相手の考えを尋ねる表現」として、What do you think of ~?を用いて、場面に合ったやり取りをすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 a. 身の回りのサービスやそれに対する日本と海外の考え方の違いについて関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりしている。 b. ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加しようとしている。		○	○	○		ができた。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができた。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができた。 c. 使役動詞(make/let/have)を用いて、正しい文を書くことができた。 d. 「相手の考えを尋ねる表現」として、What do you think of ~?を用いて、場面に合ったやり取りをすることができた。 【学びに向かう力、人間性等】 a. 身の回りのサービスやそれに対する日本と海外の考え方の違いについて関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりした。 b. ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加した。	○	○	○	10
	定期考査			○	○			○	○	○	1	
	I 単元 Lesson17～18 【知識及び技能】 a. 関係代名詞の継続用法の形や働きを理解している。 b. 考え方を变えてnegative thinkingから脱却する方法について、本文以外の例を知っている。 c. 感情をうまくコントロールすることやメンタルヘルスケアの重要性を知っている。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができる。 c. 関係代名詞の継続用法を用いて、正しい文を書くことができる。 d. 「同情する表現」として、That's too bad.を用いて、場面に合ったやり取りをすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 a. 感情と思考の関連性について関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりしている。 b. ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加しようとしている。	・指導事項 関係代名詞の継続用法 同情を表わす表現 ・教材 教科書、ワークブック		○	○	○	○	【知識及び技能】 a. 関係代名詞の継続用法の形や働きを理解できた。 b. 考え方を变えてnegative thinkingから脱却する方法について、本文以外の例を知ることができた。 c. 感情をうまくコントロールすることやメンタルヘルスケアの重要性を知ることができた。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができた。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができた。 c. 関係代名詞の継続用法を用いて、正しい文を書くことができた。 d. 「同情する表現」として、That's too bad.を用いて、場面に合ったやり取りをすることができた。 【学びに向かう力、人間性等】 a. 感情と思考の関連性について関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりした。 b. ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加した。	○	○	○	10
	J 単元 Lesson19～20 Architect of Paper 【知識及び技能】 a. 関係副詞(when/where)の基本的な用法を理解している。 b. 災害時の被災地支援に関し、さまざまな取り組みの例や問題点について	・指導事項 関係副詞 計画を伝える表現 ・教材 教科書、ワークブック						【知識及び技能】 a. 関係副詞(when/where)の基本的な用法を理解できた。 b. 災害時の被災地支援に関し、さまざまな取り組みの例や問題点について知ることができた。 c. さまざまな職業が何らかの形で社会貢				

	いて知っている。 c. さまざまな職業が何らかの形で社会貢献をしていることを知っている。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができる。 c. 関係副詞(when/where)を用いて、正しい文を書くことができる。 d. 「計画を伝える表現」として、I' m thinking of ~ing. / I' m going to ~. を用いて、場面に合ったやり取りをすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 a. 建築家 坂 茂さんと彼の活動について関心を持ち、積極的に発言しようとしていたり、聞こうとしていたりしている。 b. ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加しようとしている。					献をしていることを知ることができた。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができた。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができた。 c. 関係副詞(when/where)を用いて、正しい文を書くことができた。 d. 「計画を伝える表現」として、I' m thinking of ~ing. / I' m going to ~. を用いて、場面に合ったやり取りをすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 a. 建築家 坂 茂さんと彼の活動について関心を持ち、積極的に発言しようとしていたり、聞こうとしていたりした。 b. ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加した。				13	
	定期考査										1
3 学 期	K 単元 Lesson21～22 【知識及び技能】 a. 知覚動詞+0+動詞の原形/～ingの意味や用法を理解している。 b. アパルトヘイトがどのようなものであるかと、その撤廃までの経緯について知っている。 c. 人種・性・社会的身分などに関係なく、基本的人権が尊重されるべきであることを知っている。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができる。 c. 知覚動詞+0+動詞の原形/～ingの構文を用いて、正しい文を書くことができる。 d. 「人を誘う表現」として、How about ～ing?を用いて、場面に合ったやり取りをすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 a. マンデラとスプリングボックスの挑戦やアパルトヘイトについて関心を持ち、積極的に発言しようとしていたり、聞こうとしていたりしている。 b. ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加しようとしている。	・指導事項 知覚動詞を用いた文 人を誘う表現 ・教材 教科書、ワークブック					【知識及び技能】 a. 知覚動詞+0+動詞の原形/～ingの意味や用法を理解できた。 b. アパルトヘイトがどのようなものであるかと、その撤廃までの経緯について知ることができた。 c. 人種・性・社会的身分などに関係なく、基本的人権が尊重されるべきであることを知ることができた。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができた。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができた。 c. 知覚動詞+0+動詞の原形/～ingの構文を用いて、正しい文を書くことができた。 d. 「人を誘う表現」として、How about ～ing?を用いて、場面に合ったやり取りをすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 a. マンデラとスプリングボックスの挑戦やアパルトヘイトについて関心を持ち、積極的に発言しようとしていたり、聞こうとしていたりした。 b. ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加した。				12
	L 単元 Lesso23～24 to the World 【知識及び技能】 a. 仮定法過去/仮定法過去完了の基本的な用法を理解している。 b. 日本の町工場が開発した製品で、世界で評価されているものにつ	・指導事項 仮定法過去、仮定法過去完了 人に情報を伝える表現 ・教材 教科書、ワークブック					【知識及び技能】 a. 仮定法過去/仮定法過去完了の基本的な用法を理解できた。 b. 日本の町工場が開発した製品で、世界で評価されているものについて、ほかにもどのようなものがあるかを知ることができた。				

いて、はかにどのようなものがあるかを知っている。 c. 世界中で使われている日本製品にはどのようなものがあるかについて知っている。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができる。 c. 仮定法過去/仮定法過去完了の基本的な用法を用いて、正しい文を書くことができる。 d. 「人に情報を伝える表現」として、According to ～を用いて、場面に合ったやり取りをすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 a. 日本の工場のものでづくり精神や高度な工業技術について関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりしている。 b. ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加しようとしている。		○	○	○	○	○	c. 世界中で使われている日本製品にはどのようなものがあるかについて知ることができた。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができた。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができた。 c. 仮定法過去/仮定法過去完了の基本的な用法を用いて、正しい文を書くことができた。 d. 「人に情報を伝える表現」として、According to ～を用いて、場面に合ったやり取りをすることができた。 【学びに向かう力、人間性等】 a. 日本の工場のものでづくり精神や高度な工業技術について関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりしていた。 b. ペア・ワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加した。	○	○	○	13
定期考査		○	○	○	○	○		○	○	○	1

合計
140

年間授業計画

高等学校 令和5年度（3学年用） 教科 家庭 科目 フードデザイン

教科： 家庭 科目： フードデザイン 単位数： 4 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 2 組

使用教科書：（（教育図書） フードデザイン cooking&arrangement ）

教科 家庭 の目標： 家庭生活に関わる産業の見方・考え方を培わせる。実践的・体験的な学習活動を通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】 食生活の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 食生活に関する課題を発見し、職業人に求められる、合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。

科目 フードデザイン の目標： 習得した知識と技術を活用し、食生活を総合的にデザインするとともに、家庭や地域において食育を推進に主体的に取り組むことができる資質・能力を育成すること。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに関連する技術・情報を収集・整理することができる。	食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 健康と食生活 食事の意義と役割 食を取り巻く現状 【知識及び技能】 ・食事の意義と役割について理解するとともに、食習慣、栄養状態、食料事情、などの視点で我が国の食生活の現状と課題を把握し、関連する情報を収集・整理できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・健康な食生活の在り方に関する課題を発見し、その解決に向けて望ましい食習慣の形成や環境に配慮した食生活の工夫などについて他者と意見交換しながら考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・健康と食生活について自ら学び、食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協動的に取り組もうとしている。	・健康と食生活 【教科書、ワークシート、端末、調理実習】	【知識・技能】 ・食事の意義と役割及び我が国の食生活の現状について理解しているか。（定期試験/ワークシート/行動観察） 【思考・判断・表現】 ・健康な食生活の在り方に関する課題を発見し、その解決に向けて望ましい食習慣の形成や環境に配慮した食生活の工夫などについて他者と意見交換しながら考え、工夫しているか。（定期試験/ワークシート/行動観察） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・健康と食生活について自ら学び、食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協動的に取り組もうとしているか。（ワークシート/行動観察）	○	○	○	28
	第2章 栄養素・食品の特徴 栄養素の働き 健康に必要な栄養素 【知識及び技能】 ・基本となる栄養素の炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質などの機能と代謝及び水の生理的機能について理解している。 ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・食品の性質と目的に応じた加工、貯蔵の方法や食品の表示について、目的に応じた適切な選択ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・食品の特徴や調理上の性質の変化など、講義で学んだことを調理の学習と相互に関連を図りながら理解し、実際の調理で生かそうと考え、工夫している。	・栄養素と食品の特徴 【教科書、ワークシート、端末、調理実習】	【知識・技能】 ・基本となる栄養素の炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質などの機能と代謝及び水の生理的機能について理解しているか。（定期試験/ワークシート/行動観察） ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化について理解しているか。（定期試験/ワークシート/行動観察） 【思考・判断・表現】 ・食品の性質と目的に応じた加工、貯蔵の方法や食品の表示について、目的に応じた適切な選択ができるか。（定期試験/ワークシート/行動観察） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食品の特徴や調理上の性質の変化など、講義で学んだことを調理の学習と相互に関連を図りながら理解し、実際の調理で生かそうと考え、工夫しているか。（ワークシート/行動観察）	○	○	○	36
	定期試験			○	○		1
2 学 期	第2章 栄養素・食品の特徴 食品の特徴 食品加工の目的 【知識及び技能】 ・基本となる栄養素の炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質などの機能と代謝及び水の生理的機能について理解している。 ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・食品の性質と目的に応じた加工、貯蔵の方法や食品の表示について、目的に応じた適切な選択ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・食品の特徴や調理上の性質の変化など、講義で学んだことを調理の学習と相互に関連を図りながら理解し、実際の調理で生かそうと考え、工夫している。	・栄養素と食品の特徴 【教科書、ワークシート、端末、調理実習】	【知識・技能】 ・基本となる栄養素の炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質などの機能と代謝及び水の生理的機能について理解しているか。（定期試験/ワークシート/行動観察） ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化について理解しているか。（定期試験/ワークシート/行動観察） 【思考・判断・表現】 ・食品の性質と目的に応じた加工、貯蔵の方法や食品の表示について、目的に応じた適切な選択ができるか。（定期試験/ワークシート/行動観察） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食品の特徴や調理上の性質の変化など、講義で学んだことを調理の学習と相互に関連を図りながら理解し、実際の調理で生かそうと考え、工夫しているか。（行動観察）	○	○	○	40
	第3章 調理と献立 様式別の献立と調理・食卓作法 食文化を見つめる テーブルコーディネート 【知識及び技能】 ・我が国や世界の食文化を理解するとともに、食事のテーマに応じた調理、テーブルコーディネートと各料理のサービス方法について、基本的な考え方や方法を理解し、関連する技術を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・日常の食卓の工夫をはじめ、代表的な料理様式とともに自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・世界の食文化について自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ共同的に取り組もうとしている。	・献立と調理 【教科書、ワークシート、端末、調理実習】	【知識・技能】 ・我が国や世界の食文化を理解するとともに、食事のテーマに応じた調理、テーブルコーディネートと各料理のサービス方法について、基本的な考え方や方法を理解し、関連する技術を身に付けているか。 【思考・判断・表現】 ・日常の食卓の工夫をはじめ、代表的な料理様式とともに自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫しているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・世界の食文化について自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ共同的に取り組もうとしているか。	○	○	○	40
	定期考査			○	○		1

3 学 期	調理実習第3章 調理と献立 様式別の献立と調理・食卓作法 食文化を見つめる テーブルコーディネート 【知識及び技能】 ・我が国や世界の食文化を理解するとともに、食事のテーマに応じた調理、テーブルコーディネートと各料理のサービス方法について、基本的な考え方や方法を理解し、関連する技術を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・日常の食卓の工夫をはじめ、代表的な料理様式とともに自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・世界の食文化について自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ共同的に取り組もうとしている。	・献立と調理 【教科書、ワークシート、端末、調理実習】	【知識・技能】 ・我が国や世界の食文化を理解するとともに、食事のテーマに応じた調理、テーブルコーディネートと各料理のサービス方法について、基本的な考え方や方法を理解し、関連する技術を身に付けているか。 【思考・判断・表現】 ・日常の食卓の工夫をはじめ、代表的な料理様式とともに自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫しているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・世界の食文化について自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ共同的に取り組もうとしているか。	○	○	○	22
							合計
							140

[illegible]

年間授業計画

高等学校 令和5年度（3学年用） 教科 家庭 科目 子ども文化

教科： 家庭 科目： 子ども文化 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 2 組

使用教科書：（ 教育図書 子ども文化 ）

教科 家庭

の目標：

【知識及び技能】

人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭・衣食住、消費や環境などについて生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出し課題を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善し考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど生涯を見通して課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

科目 子ども文化

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
子どもと遊び、子どもの表現活動、児童文化財など、子ども文化に関する知識と技術を習得させる	造形表現活動、言語表現活動、音楽・身体表現活動、情報手段などを活用した活動について、児童文化財の製作等ができるようにする	子どもに豊かで健康的な文化環境を与えることに関心をもち、積極的に子どもとのかかわることのできる能力と実践的な態度を育てる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章子ども文化とは何だろう 第2章子どもと遊び 【知識及び技能】子どもが主体となって創作する遊びや歌、言葉などを総合した子ども文化の重要性について理解する。また、子どもにとって音楽とは、感情や感覚に訴えてくるものであることを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】子どものための文化活動、児童文化財、児童文化財施設などについて調べ、子どもの文化の意義について考える。また、子どもに歌いかけたり、ともに歌ったり、手拍子を取ったりすることの重要性について考えることができるようになる。 【主体的に学習に取り組む態度】現代の商品化された子供の遊びに触れ、社会の変化に伴い、子どもの遊びの環境が変化の中でそれらの問題の課題解決が行えるようにする。また、音楽とかかわり、身体を通して表現でき、子どもの想像力を育てることができるようにする。	・1年間の授業の流れ ＜音楽・身体表現活動＞作曲、ピアノの弾き歌い、音楽理論 ＜言語活動＞絵本の読み聞かせ＜情報手段などを活用した活動＞情報手段を活用した活動の意義について考える。	【知識及び技能】子どもが主体となって創作する遊びや歌、言葉などを総合した子ども文化の重要性について理解できる。また、子どもにとって音楽とは、感情や感覚に訴えてくるものであることを理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】子どものための文化活動、児童文化財、児童文化財施設などについて調べ、子どもの文化の意義について考えることができる。また、子どもに歌いかけたり、ともに歌ったり、手拍子を取ったりすることの重要性について考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】現代の商品化された子供の遊びに触れ、社会の変化に伴い、子どもの遊びの環境が変化の中でそれらの問題の課題解決が行える。また、音楽とかかわり、身体を通して表現でき、子どもの想像力を育てることができる。	○	○	○	14
	第3章子どもと表現活動 第4章子どもと文学 【知識及び技能】遊びの意義と重要性及び遊びの種類と発達とのかわりについて理解する。また、子どもは歌うことと身体を動かすことは切り離すことができないことを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】伝承遊びや安全、丈夫で壊れにくいなどの条件を満たした遊具を考案し制作する。 【主体的に学習に取り組む態度】遊具の遊び方や与え方、遊び場、遊びの指導、音楽とかかわりやリズム感など、創造性を育てるためになど	＜音楽・身体活動＞ピアノの連弾、弾き歌い、音楽理論 ＜言語活動＞素話 ＜子どもと遊び＞昔の遊びと今の遊びについて、社会の変化とともに考える。	【知識及び技能】遊びの意義と重要性及び遊びの種類と発達とのかわりについて理解できる。また、子どもは歌うことと身体を動かすことは切り離すことができないことを理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】伝承遊びや安全、丈夫で壊れにくいなどの条件を満たした遊具を考案し制作する。 【主体的に学習に取り組む態度】遊具の遊び方や与え方、遊び場、遊びの指導、音楽とかかわりやリズム感など、創造性を育てるためになどを具体的に考えることができる。	○	○	○	14
	定期考査 家庭科技術検定保育検定（言語、看護、音楽2級）			○	○		1
2 学 期	第4章子どもと文学 第5章現代の子供の生活と文化 【知識及び技能】お話の効用として、想像力と思考力を育てる、人間関係を深める、言葉の力や話を聞くことを楽しむ、読書への素地づくりなどを理解する。また、子どものために作られた歌について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】様々な対象年齢の絵本の読み聞かせを行う。また、楽器演奏や伴奏ができるようになる。また、市販のCDやDVDなどに触れ、大人と一緒に音楽を楽しむことの大切さについて考える。 【主体的に学習に取り組む態度】絵本や紙芝居等を作作することができる。また、作詞作曲を行う。	＜音楽・身体活動＞朗読の作曲、弾き歌い、音楽理論 ＜言語活動＞絵本の読み聞かせ、人形劇 ＜子ども文化を支える場＞児童文化施設について考える。	【知識及び技能】お話の効用として、想像力と思考力を育てる、人間関係を深める、言葉の力や話を聞くことを楽しむ、読書への素地づくりなどがあることを理解できる。また、子どものために作られた歌について理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】さまざまな対象年齢の絵本の読み聞かせができるようになる。また、楽器演奏や伴奏ができるようになる。また、市販のCDやDVDなどに触れ、大人と一緒に音楽を楽しむことの大切さについて考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】絵本や紙芝居等を作作することができる。また、作詞作曲を行うことができる。	○	○	○	14
	第6章子ども文化を支える場 【知識及び技能】絵を描くには発達の順序があることを理解する。また、テレビやインターネットなどの情報手段を活用した活動の意義を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】情報手段の適切な活用について考える。また、子ども文化実習についての製作を行う。また、子どもの心の感動が原動力となって 描いたり作った	＜音楽・身体活動＞インプロ（即興劇）、弾き歌い、音楽理論 ＜言語活動＞ベープサート、パネルシアター、ストーリーテリング ＜子ども文化を支える場＞子どものための各種施設（商業目的で提供されている子どものための施設など）について考える。	【知識及び技能】絵を描くには発達の順序があることを理解できる。また、テレビやインターネットなどの情報手段を活用した活動の意義を理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】情報手段の適切な活用について考えることができる。また、子ども文化実習についての製作を行う。 【主体的に学習に取り組む態度】子どもの遊びや教育機会を発展させる活用の仕方について考え、発表できる。	○	○	○	14

	りすることの大切さや表現活動を通して個々の創造性を育てていくことの大切さを考える。 【主体的に学習に取り組む態度】子どもの遊びや教育機会を発展させる活用の仕方について考え、発表する。描画表現の種類や特徴について調べ、発表する。			○	○	○	16		
	定期考査 家庭科技術検定保育検定（言語、看護、音楽1級）			○	○		1		
3 学 期	第7章 子ども文化実習 【知識・技能】子どもと遊び、表現活動、児童文化財に関する知識と技術を実践的に活用できるようにする。 【思考・判断・表現】交流体験において、子どもの発達段階に応じた表現活動企画を考える。 【主体的に学習に取り組む態度】交流体験において、積極的に企画運営を行う。	児童福祉施設、社会教育施設、児童文化施設などで地域の子どもの交流を体験する。	【知識・技能】子どもと遊び、表現活動、児童文化財に関する知識と技術を実践的に活用できる。	【思考・判断・表現】子どもたちが楽しめる表現活動企画を考えることができる。	【主体的に学習に取り組む態度】参加をためらう子どもたちに声掛けをするなど、全体を見ながら積極的に交流できる。	○	○	○	10
									合計
									70

年間授業計画

高等学校 令和5年度（3学年用） 教科 家庭 科目 食と健康

教科： 家庭 科目： 食と健康 単位 2 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 2 組

使用教科書：（ なし ）

教科 家庭 の目標：

- 【知識及び技能】 家庭生活の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 家庭生活に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 職業生活を営むために必要な豊かな人間性を育む。自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 食と健康 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
栄養学の基礎を学習し、食を通して社会に望まれるスペシャリストへ成長しながら就職、また、上級学校進学に備える。	・考え抜く力（課題発見力・計画力・創造力）を養う。・未来のなりたい自分を創造する。・チーム力（発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力）を養う。	演習を交え、基本的な技法を用いて症例・事例を体験展開し、社会に適応出来る能力（覚悟と基礎力）を身に付け、コミュニケーション能力を高める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	能	配当 時数
1 学 期	・「食と健康」ガイダンス ・パーソナリティの確認 ・食べること ・自己実現への道	「食と健康」ガイダンス 自身のパーソナリティを認知する。 自分にとって、食えることはどんな位置（意味）づけか、人に伝えられるようにまとめる。 やりたい事を見つけ、追い求める姿勢を求め、対話しながら指導する。	【知識】小テスト 【思考】レポート 振り返りシート 発表 【意欲】チームワーク コミュニケーション	○	○	○	6
	・共感・感動した体験の共有	人生で一番感動や共感をした、映画、テレビ、本など何でもよいので、共感・感動した内容をまとめる	【知識】小テスト 【思考】レポート 振り返りシート 発表 【意欲】チームワーク コミュニケーション	○	○	○	4
	・職業倫理 ・行動変容とは ・行動変容に必要な技法	職業倫理（職業人としての姿勢や態度）を学ぶ	【知識】小テスト	○	○	○	4
	・アサーション ・仲間作り ・食品や栄養の問題点 ・有名人の勝負飯・おやつ	アサーションを深める講義を展開する。 藤井壮太 井上尚等有名な人の栄養管理を例として食生活の重要性について学ぶ。	【知識】小テスト 【思考】レポート 振り返りシート 発表 【意欲】チームワーク コミュニケーション	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
2 学 期	・病気の予防 ・病気の治療について ・フレイル・サルコペニア ・アスリートのスポーツ栄養 ・一般人のスポーツ栄養	低栄養のヘルスカウンセリングを通して基本姿勢と技法を学ぶ。 仮チームで症例実習に臨む。全力で考える。 スポーツ栄養学について、アスリートと一般人について分けて講義をする。	【知識】小テスト 【思考】レポート 振り返りシート 発表 【意欲】チームワーク コミュニケーション	○	○	○	14
	・公務員の食と健康 ・乳幼児期の食と健康 ・防災時の食と健康 ・防災食・フードロス ・サプリメント ・起業家・フリーランスの食傾向 ・給食会社	様々な生活様式や成長過程を想定して、との食の傾向から健康課題について研究、実践例などを紹介する 保育栄養系については乳幼児期の食と健康にフォーカスする。特に歯や骨の成長との関連について学ぶ。	【知識】小テスト 【思考】レポート 振り返りシート 発表 【意欲】チームワーク コミュニケーション	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
3 学 期	フードスペシャリスト フードコーディネーター 雑煮・日本料理の最高傑作 栄養学のスペシャリストへ	栄養系のスペシャリストとフードコーディネーターについて学ぶ。 日本料理の素晴らしさについて雑煮を題材にして学ぶ。 栄養学のスペシャリストを目指すことを支援するメッセージを伝える。	【知識】小テスト 【思考】レポート 振り返りシート 発表 【意欲】チームワーク コミュニケーション	○	○	○	10
	卒業成果発表会準備等	学んだことをまとめるための時間を与え、その内容について対話をする。	【思考力】プレゼンの手法 【意欲】行事に対する取り組みの姿勢	○	○	○	4
						合計	70

年間授業計画

高等学校 令和5年度（3学年用） 教科 家庭 科目 生活と福祉（実践）

教科： 家庭 科目： 生活と福祉（実践） 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 2 組

使用教科書：（ 生活と福祉 ）

教科 家庭 の目標：

- 【知識及び技能】人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、加速・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭・衣食住、消費や環境などについて生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善し考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど生涯を見通して課題を解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

科目 生活と福祉（実践） の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
高齢者の健康と生活、介護などについて体系的・系統的に理解するとともに関連する技術・情報を収集・整理することができる。	高齢者の健康と生活、介護などに関する課題を発見し、高齢者の自立支援と福祉の充実を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	家族や地域の人々の豊かな生活の実現を目指して自ら学び、高齢者の生活の質の向上と自立生活支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	3章 高齢者の自立生活支援 【知識及び技能】 自立生活支援と高齢者介護について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。3章 高齢者の自立生活支援	・ノーマライゼーションについて ・バリアフリーについて ・ユニバーサルデザインについて 【教科書、ワークシート、端末】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	12
	5章 介護・看護の実習と生活支援 【知識及び技能】 介護・看護の実践について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・高齢者の食生活について ・「食」の生活支援 ・傾聴について 【教科書、ワークシート、端末】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	12
2 学 期	2章 高齢化の現状と高齢者の特徴 【知識及び技能】 高齢化の現状や高齢者の心身の特徴、生活課題の施策について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・高齢者の自立生活支援と ・「住」の生活支援 ・サロン活動について 【教科書、ワークシート、端末】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	12
	1章 人の一生と生活・健康 【知識及び技能】 健康の概念やライフステージにおける健康管理について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・オレンジリボン運動について 【教科書、ワークシート、端末】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	14
3 学 期	2章 高齢化の現状と高齢者の特徴 【知識及び技能】 高齢化の現状や高齢者の心身の特徴、生活課題の施策について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・認知症について 【教科書、ワークシート、端末】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	20
							合計
							70

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	グループ別課題研究 日本料理、西洋料理、中国料理、和菓子、洋菓子、パン、ウェディングケーキのグループに分けて実践的に理解する 個人課題研究 コンテストや資格取得に挑戦する 【知識及び技能】 ①テーマ ②献立作成 ③調理 ④おテーブルコーディネート の今までの学びを生かすことが出来る 【思考力、判断力、表現力等】 課題解決に向けて、理解を深める 【学びに向かう力、人間性等】 課題を解決するために、自ら学び、調理業界の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む力を身に付ける	・オリエンテーション ・ワークシート ・コックコート一式	【知識・技能】 課題研究の進め方について理解し、自らの課題を設定できる。 【思考・判断・表現】 設定した課題の解決に向けて、実施計画を立て、わかりやすくまとめることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自ら課題を考え、課題解決に向けてテーマを設けることが出来る	○	○	○	30
2 学期	グループ別課題研究 日本料理、西洋料理、中国料理の各ジャンルに分かれ、ビュッフェスタイルの料理について実践的に研究し理解する 個人課題研究 コンテストや資格取得に挑戦する 【知識及び技能】 ①テーマ ②献立作成 ③調理 ④おテーブルコーディネート の今までの学びを生かすことが出来る 【思考力、判断力、表現力等】 課題解決に向けて、理解を深める 【学びに向かう力、人間性等】 課題を解決するために、自ら学び、調理業界の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む力を身に付ける	・ワークシート ・コックコート一式	【知識・技能】 課題研究の進め方について理解し、自らの課題を設定できる。 【思考・判断・表現】 設定した課題の解決に向けて、実施計画を立て、わかりやすくまとめることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自ら課題を考え、課題解決に向けてテーマを設けることが出来る	○	○	○	30
3 学期	研究成果のまとめ、発表(卒業制作展) 日本料理・西洋料理・中国料理 【知識及び技能】 喫食者が食べやすいビュッフェ料理を作るための工夫を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 喫食者が喜ぶビュッフェ料理にはどのようなものがあるか理解する 【学びに向かう力、人間性等】 喫食者が喜ぶ料理にはどのような工夫があるかを知り、テーブルコーディネートを通し表現する	・一人20人分の料理を三品制作し、喫食者におもてなしを行う ・コックコート一式	【知識及び技能】 ビュッフェ料理の献立構成を理解し、一口サイズやフィンガーフードを作ることが出来る 【思考力、判断力、表現力等】 喫食者が喜ぶビュッフェ料理を作ることが出来る 【学びに向かう力、人間性等】 喫食者をもてなすにはどのような方法があるのかを知り、表現することが出来る	○	○	○	10
							合計
							70

高等学校 令和5年度（3学年用）教科 家庭 科目 公衆衛生
 教 科： 家庭 科 目： 公衆衛生 単位数： 2 単位
 対象学年組：第 3 学年 3 組～ 組
 使用教科書：（ 新調理師養成全書 1 食生活と健康 ）
 教科 家庭 の目標：

と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
集団の健康と公衆衛生などについて体系的に・系統的に理解するとともに、関連する技術・情報を収集・整理することができる。	公衆衛生に関する課題を発見し、疾病の予防と健康づくりを担う職業人として合理的かつ創造的に解決にむけて考察し、工夫する。	疾病の予防や健康づくりを目指して自ら学び、公衆衛生の発展に自ら学び、創造的な調理に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	食生活と疾病 【知識及び技能】 現代の疾病のあり方は多様化している。健康の概念を理解しそれに必要な食生活について理解する 【思考・判断・表現】 日本の健康水準と世界を比べ、目指すべき健康について考えを深める 【主体的に学習に取り組む態度】 健康でいるためにはどうしたらよいか、健康寿命の大切さとヘルスプロモーションについて考える	教科書 疾病の動向と予防や、健康状態を成立させるために必要な食生活について学ぶ。	【知識・技能】 健康の概念を理解し、実践できている 【思考・判断・表現】 日本が長寿国であり、目指すべき健康の姿を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 健康でいるためにはどうしたらよいか、健康寿命の大切さとヘルスプロモーションについて理解している	○	○	○	5
	定期考査			○	○		1
	健康づくり 【知識及び技能】 疾病の予防や、食と健康に関する法律について理解する 【思考・判断・表現】 食と健康に関する法律が生活にどのように生かせるか考えを深める 【主体的に学習に取り組む態度】 調理師が健康づくりの実現にどのように関わられるか考える	教科書 調理師と健康づくりの関りについて理解する。	【知識・技能】 食と健康に関する法律について理解している 【思考・判断・表現】 食と健康に関する法律が生活にどのように生かせるか理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 調理師が健康づくりの実現にどのように関わられるか理解している	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
2 学 期	調理師と食育 【知識及び技能】 食育や食育教室について理解する 【思考・判断・表現】 食育における調理師のあり方を理解する 【主体的に学習に取り組む態度】 食育について、調理師としてどのようなことを伝えていきたいか考える	教科書 食育教室を開催するための知識と技術を習得する。	【知識・技能】 食育とは何か理解している 【思考・判断・表現】 食育教室を実践し、計画や実演の知識や技術を習得している 【主体的に学習に取り組む態度】 食育について、調理師としてどのようなことを伝えるか提案できる	○	○	○	24
	定期考査			○	○		1
	労働と健康 【知識及び技能】 労働災害が起きたときにどうしたら良いか理解する 【思考・判断・表現】 快適な調理施設環境に必要な条件とは何か考えを深める 【主体的に学習に取り組む態度】 労働作業環境について考える	教科書 労働災害時、自分には何が出来るか、出来る範囲を広げる。	【知識・技能】 労働災害とは何か理解している 【思考・判断・表現】 快適な調理施設環境に必要な条件を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 作業環境について考え、改善には何が必要か提案出来る	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
3 学 期	環境と健康 【知識及び技能】 身近な日々の暮らしの中で、地球環境保護のためにできることを理解する 【思考・判断・表現】 循環型社会をつくるための問題点について考えを深める 【主体的に学習に取り組む態度】 調理師として環境に配慮した料理をつくればよいか考える	教科書 調理師と循環型社会の関りについて理解する。	【知識・技能】 身近な日々の暮らしの中で、地球環境保護のためにできることを理解している 【思考・判断・表現】 循環型社会をつくるための問題点について理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 調理師として環境に配慮した料理をつくればよいか理解している	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
							合計
							70

年間授業計画

高等学校 令和5年度（3学年用） 教科 家庭 科目 食品衛生

教科： 家庭 科 目： 食品衛生 単位数： 4 単位

対象学年組： 第 3 学年 3 組

使用教科書：（ 食品の安全と衛生（全国調理師養成施設協会） ）

教科 家庭 の目標：

【知識及び技能】生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上

と社会の発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。

科目 食品衛生 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
食生活の安全と食品衛生対策について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする	食生活の現状から食品衛生に関する課題を発見し、安全で衛生的な食生活の実現を担う調理師として合理的かつ創造的に解決する力を養う	安全で衛生的な食生活の実現を目指して自ら学び、食品衛生に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	食品衛生対策 【知識及び技能】 微生物や化学的作用による食品の変質について理解し、関連する技術を身に付ける 【思考力、判断力、表現力等】 食品の鑑別や保管について課題を発見し、その解決に向けて考察する 【学びに向かう力、人間性等】 食品の変質とその予防について自ら学び、食品の鑑別や保管に主体的かつ協動的に取り組む	教科書 ワークシート 白衣、三角巾	食品衛生対策 【知識及び技能】 微生物や化学的作用による食品の変質について理解し、関連する技術を身に付けている 【思考力、判断力、表現力等】 食品の鑑別や保管について課題を発見し、その解決に向けて考察できる 【学びに向かう力、人間性等】 食品の変質とその予防について自ら学び、食品の鑑別や保管に主体的かつ協動的に取り組むことができる	○	○	○	30
	食品添加物 【知識及び技能】 食品添加物の使用目的、用途、使用基準及び表示にちいて理解する 【思考力、判断力、表現力等】 食品添加物の利点、安全性及び食成果うとの関わりについて課題を発見し、その解決に向けて考察する 【学びに向かう力、人間性等】 食品添加物について自ら学び、食品衛生に主体的かつ協動的に取り組む	教科書 ワークシート 白衣、三角巾	食品添加物 【知識及び技能】 食品添加物の使用目的、用途、使用基準及び表示にちいて理解できる 【思考力、判断力、表現力等】 食品添加物の利点、安全性及び食成果うとの関わりについて課題を発見し、その解決に向けて考察できる 【学びに向かう力、人間性等】 食品添加物について自ら学び、食品衛生に主体的かつ協動的に取り組むことができる	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
	食生活の安全と食品安全行政 【知識及び技能】 食品安全行政の取り組みなど、食品安全に関わる対策について理解する 【思考力、判断力、表現力等】 食品安全対策について課題を発見し、その解決に向けて考察する 【学びに向かう力、人間性等】 食生活の安全と食品安全行政について自ら学び、食品衛生に主体的かつ協動的に取り組む	教科書 ワークシート 白衣、三角巾	食生活の安全と食品安全行政 【知識及び技能】 食品安全行政の取り組みなど、食品安全に関わる対策について理解している 【思考力、判断力、表現力等】 食品安全対策について課題を発見し、その解決に向けて考察できる 【学びに向かう力、人間性等】 食生活の安全と食品安全行政について自ら学び、食品衛生に主体的かつ協動的に取り組むことができる	○	○	○	30
	定期考査			○	○		1
2 学 期	食中毒とその予防（寄生虫） 【知識及び技能】 食中毒の特徴、症状、発生状況と汚染源及びそれらの予防法を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 食中毒予防における課題を発見し、その解決に向けて考察する 【学びに向かう力、人間性等】 食中毒とその予防について自ら学び、食品衛生に主体的かつ協動的に取り組む	教科書 ワークシート 白衣、三角巾	食中毒とその予防（寄生虫） 【知識及び技能】 食中毒の特徴、症状、発生状況と汚染源及びそれらの予防法を理解している 【思考力、判断力、表現力等】 食中毒予防における課題を発見し、その解決に向けて考察できる 【学びに向かう力、人間性等】 食中毒とその予防について自ら学び、食品衛生に主体的かつ協動的に取り組むことができる	○	○	○	30
	定期考査			○	○		1
	食物アレルギーとその予防 【知識及び技能】 食物アレルギーの特徴、症状、発生状況と原因物質、発症について理解し、関連する技術を身に付ける	教科書 ワークシート 白衣、三角巾	食物アレルギーとその予防 【知識及び技能】 食物アレルギーの特徴、症状、発生状況と原因物質、発症について理解し、関連する技術を身に付けている				

	【思考力、判断力、表現力等】 食物アレルギーとその予防について自ら学び、食品衛生に主体的かつ協働的に取り組む 【学びに向かう力、人間性等】 食物アレルギーとその予防について自ら学び、食品衛生に主体的かつ協働的に取り組む	【思考力、判断力、表現力等】 食物アレルギーとその予防について自ら学び、食品衛生に主体的かつ協働的に取り組むことができる 【学びに向かう力、人間性等】 食物アレルギーとその予防について自ら学び、食品衛生に主体的かつ協働的に取り組むことができる	○	○	○	16
	定期考査		○	○		1
3 学 期	食品衛生対策 【知識及び技能】 微生物や化学的作用による食品の変質について理解し、関連する技術を身に付ける 【思考力、判断力、表現力等】 食品の鑑別や保管について課題を発見し、その解決に向けて考察する 【学びに向かう力、人間性等】 食品の変質とその予防について自ら学び、食品の鑑別や保管に主体的かつ協働的に取り組む	教科書 ワークシート 白衣、三角巾	食品衛生対策 【知識及び技能】 微生物や化学的作用による食品の変質について理解し、関連する技術を身に付けている 【思考力、判断力、表現力等】 食品の鑑別や保管について課題を発見し、その解決に向けて考察できる 【学びに向かう力、人間性等】 食品の変質とその予防について自ら学び、食品の鑑別や保管に主体的かつ協働的に取り組むことができる			10
						合計
						140

年間授業計画

高等学校 令和5年度（3学年用） 教科 家庭 科目 調理

教科： 家庭 科目： 調理 単位数： 3 単位

対象学年組：第 3 学年 3 組

使用教科書：（ 全国調理師養成施設協会 5調理実習 レシピ集 生活学NaVi ）

教科 家庭 の目標： 家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 調理 の目標： 家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、創造的に調理し、健康の保持増進に寄与する食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質能力を育成する。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
調理の基礎、献立作成及び様式別調理などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	食生活の現状から調理に関する課題を発見し、調理を通して食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	調理の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、創造的な調理に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	日本料理（先付、お造り、焼き物、浸し物） 【知識及び技能】 地域や種類により料理の名称や造り方の違いを知る 【思考力、判断力、表現力等】 日本料理で使用する調理技術を習得する 【学びに向かう力、人間性等】 日本料理の種類と調理法の違いを理解し、現代における会席料理とうまみの関係を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	中国料理 【知識・技能】 日本料理の魚の卸し方、包丁の扱い方を理解している 【思考・判断・表現】 日本料理の技法を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 日本料理の献立構成を理解し、実際に献立を組むことが出来る	○	○	○	15
	西洋料理（ヴィアンド） 【知識及び技能】 基本となる肉の下ごしらえ、調理器具の使い方を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 西洋料理で使用する調理技術を習得する 【学びに向かう力、人間性等】 西洋料理の種類と調理法の違いを理解し、現代におけるフランス料理とソースの関係を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	西洋料理 【知識・技能】 西洋料理で用いる肉の種類と下ごしらえの方法を理解している 【思考・判断・表現】 西洋料理の技法を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 フランス料理の献立構成を理解し、実際に献立を組むことが出来る	○	○	○	10
	中国料理（火烹法） 【知識及び技能】 放射熱を利用する調理法にはどのようなものがあるか理解する 【思考力、判断力、表現力等】 放射熱を利用する料理と火烹法の種類が結びつく知識を身に付ける 【学びに向かう力、人間性等】 中国料理の種類と調理例を通し、火烹法に用いた料理を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識・技能】 中国料理で用いる食材の種類と干货の扱い方を理解している 【思考・判断・表現】 中華料理の技法を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 中国料理の献立構成を理解し、実際に献立を組むことが出来る	○	○	○	10
	定期考査			○	○		5
	日本料理（会席料理） 【知識及び技能】 地域や種類により料理の名称や造り方の違いを知る 【思考力、判断力、表現力等】 日本料理で使用する調理技術を習得する 【学びに向かう力、人間性等】 日本料理の種類と調理法の違いを理解し、現代における会席料理とうまみの関係を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	中国料理 【知識・技能】 日本料理の魚の卸し方、季節の食材の扱い方を理解している 【思考・判断・表現】 日本料理の技法を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 日本料理の献立構成を理解し、実際に献立を組むことが出来る	○	○	○	10
	西洋料理（フルコース） 【知識及び技能】 基本となる肉の下ごしらえ、調理器具の使い方を理解する 【思考力、判断力、表現力等】	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	西洋料理 【知識・技能】 西洋料理で用いる肉の種類と下ごしらえの方法を理解している 【思考・判断・表現】				

2 学 期	西洋料理で使用する調理技術を習得する 【学びに向かう力、人間性等】 西洋料理の種類と調理法の違いを理解し、現代におけるフランス料理とソースの関係を理解する		西洋料理の技法を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 フランス料理の献立構成を理解し、実際に献立を組むことが出来る	○	○	○	15
	中国料理（薬膳料理） 【知識及び技能】 薬膳料理にはどのようなものがあるか理解する 【思考力、判断力、表現力等】 薬膳料理で利用する食材と調理法に関する知識を身に付ける 【学びに向かう力、人間性等】 薬膳料理を通じ、医食同源を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識・技能】 中国料理で用いる食材の種類と干货の扱い方を理解している 【思考・判断・表現】 薬膳料理と調味料の関係を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 中国料理の香辛料について学びを深め、医食同源の料理を作ることが出来る	○	○	○	15
	定期考査			○	○		5
3 学 期	日本料理・西洋料理・中国料理 【知識及び技能】 喫食者が食べやすいビュッフェ料理を作るための工夫を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 喫食者が喜ぶビュッフェ料理にはどのようなものがあるか理解する 【学びに向かう力、人間性等】 喫食者が喜ぶ料理にはどのような工夫があるかを知り、テーブルコーディネートを通し表現する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット ・サービスウェア一式	【知識及び技能】 ビュッフェ料理の献立構成を理解し、一口サイズやフィンガーフードを作ることが出来る 【思考力、判断力、表現力等】 喫食者が喜ぶビュッフェ料理を作ることが出来る 【学びに向かう力、人間性等】 喫食者をもてなすにはどのような方法があるのかを知り、表現することが出来る	○	○	○	15
	定期考査			○	○		5
							合計
							105

年間授業計画

高等学校 令和5年度（3学年用） 教科 家庭 科目 調理理論

教科： 家庭 科目： 調理理論 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 3 組

使用教科書： （ 全国調理師養成施設協会 5調理実習 レシピ集 生活学NaVi ）

教科 家庭 の目標：

【知識及び技能】生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上

と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 調理理論 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
調理の基礎、献立作成及び様式別調理などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	食生活の現状から調理に関する課題を発見し、調理を通して食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	調理の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、創造的な調理に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	日本料理（先付、お造り、焼き物、浸し物） 【知識及び技能】 地域や種類により料理の名称や造り方の違いを知る 【思考力、判断力、表現力等】 日本料理で使用する調理技術を習得する 【学びに向かう力、人間性等】 日本料理の種類と調理法の違いを理解し、現代における会席料理とうまみの関係を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	中国料理 【知識・技能】 日本料理の魚の卸し方、包丁の扱い方を理解している 【思考・判断・表現】 日本料理の技法を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 日本料理の献立構成を理解し、実際に献立を組むことが出来る	○	○	○	10
	西洋料理（ヴィアンド） 【知識及び技能】 基本となる肉の下ごしらえ、調理器具の使い方を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 西洋料理で使用する調理技術を習得する 【学びに向かう力、人間性等】 西洋料理の種類と調理法の違いを理解し、現代におけるフランス料理とソースの関係を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	西洋料理 【知識・技能】 西洋料理で用いる肉の種類と下ごしらえの方法を理解している 【思考・判断・表現】 西洋料理の技法を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 フランス料理の献立構成を理解し、実際に献立を組むことが出来る	○	○	○	10
	中国料理（火烹法） 【知識及び技能】 放射熱を利用する調理法にはどのようなものがあるか理解する 【思考力、判断力、表現力等】 放射熱を利用する料理と火烹法の種類が結びつく知識を身に付ける 【学びに向かう力、人間性等】 中国料理の種類と調理例を通し、火烹法に用いた料理を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識・技能】 中国料理で用いる食材の種類と干貨の扱い方を理解している 【思考・判断・表現】 中華料理の技法を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 中国料理の献立構成を理解し、実際に献立を組むことが出来る	○	○	○	9
	定期考査			○	○		2
2 学 期	日本料理（会席料理） 【知識及び技能】 地域や種類により料理の名称や造り方の違いを知る 【思考力、判断力、表現力等】 日本料理で使用する調理技術を習得する 【学びに向かう力、人間性等】 日本料理の種類と調理法の違いを理解し、現代における会席料理とうまみの関係を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	中国料理 【知識・技能】 日本料理の魚の卸し方、季節の食材の扱い方を理解している 【思考・判断・表現】 日本料理の技法を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 日本料理の献立構成を理解し、実際に献立を組むことが出来る	○	○	○	9
	西洋料理（フルコース） 【知識及び技能】 基本となる肉の下ごしらえ、調理器具の使い方を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 西洋料理で使用する調理技術を習得する 【学びに向かう力、人間性等】 西洋料理の種類と調理法の違いを理	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	西洋料理 【知識・技能】 西洋料理で用いる肉の種類と下ごしらえの方法を理解している 【思考・判断・表現】 西洋料理の技法を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 フランス料理の献立構成を理解し、実際に献立を組むことが出来る	○	○	○	9

	解し、現代におけるフランス料理とソースの関係を理解する						
	中国料理（薬膳料理） 【知識及び技能】 薬膳料理にはどのようなものがあるか理解する 【思考力、判断力、表現力等】 薬膳料理で利用する食材と調理法に関する知識を身に付ける 【学びに向かう力、人間性等】 薬膳料理を通じ、医食同源を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識・技能】 中国料理で用いる食材の種類と干貨の扱い方を理解している 【思考・判断・表現】 薬膳料理と調味料の関係を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 中国料理の香辛料について学びを深め、医食同源の料理を作ることが出来る	○	○	○	9
	定期考査			○	○		2
3 学 期	日本料理・西洋料理・中国料理 【知識及び技能】 喫食者が食べやすいビュッフェ料理を作るための工夫を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 喫食者が喜ぶビュッフェ料理にはどのようなものがあるか理解する 【学びに向かう力、人間性等】 喫食者が喜ぶ料理にはどのような工夫があるかを知り、テーブルコーディネートを通し表現する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット ・サービスウェア一式	【知識及び技能】 ビュッフェ料理の献立構成を理解し、一口サイズやフィンガーフードを作ることが出来る 【思考力、判断力、表現力等】 喫食者が喜ぶビュッフェ料理を作ることが出来る 【学びに向かう力、人間性等】 喫食者をもてなすにはどのような方法があるのかを知り、表現することが出来る	○	○	○	9
	定期考査			○	○		1
							合計
							70

年間授業計画

高等学校 令和5年度（3学年用） 教科 福祉 科目 社会福祉基礎	
教 科： 福祉	科 目： 社会福祉基礎
対象学年組：第 3 学年 4 組～ 組	
使用教科書：（ 社会福祉基礎(実教出版）	）
教科 福祉	の目標： 福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、福祉を通じ、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。
【知 識 及 び 技 能】	社会福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	社会福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	職業生活を営むために必要な豊かな人間性を育む。自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
科目 社会福祉基礎	の目標： 福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会福祉の向上に必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
福祉の基礎を学習し、社会に望まれるスペシャリストの育成を目指しながら、各自の進路実現に備える。	・考え抜く力（課題発見力・計画力・創造力）を養う。・未来のなりたい自分を創造する。・チーム力（発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力）を養う。	演習を交え、基本的な技法を用いて症例・事例を体験展開し、社会に適応出来る能力（覚悟と基礎力）を身に付け、コミュニケーション能力を高める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第4編 第1章コミュニケーションの基礎 【知識及び技能】 コミュニケーションの概念や対象に応じたコミュニケーション技術について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・コミュニケーションの意義・役割 ・コミュニケーションの基礎的方法	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【学びに向かう力、人間性等】 ワークシート	○	○	○	3
	第4編 第2章援助における人間関係の形成 【知識及び技能】 対人援助における人間関係の形成について、専門職として必要な知識を身に付け、理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・傾聴、受容、共感の姿勢 ・利用者理解と援助者の自己理解	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【学びに向かう力、人間性等】 ワークシート	○	○	○	3
	定期考査			○	○		1
	第4編 第3章社会福祉援助活動の概要 【知識及び技能】 個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術の役割と特徴について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・個別援助技術の活用と福祉活動 ・集団援助技術の活用と福祉活動 ・地域援助技術の活用と福祉活動 ・社会福祉援助活動の発展	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【学びに向かう力、人間性等】 ワークシート	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
2 学 期	第5編 第1章地域福祉の進展と地域の将来 【知識及び技能】 地域福祉活動やボランティア、非営利民間福祉活動の役割と意義について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・地域福祉活動とボランティア ・非営利民間福祉活動 ・福祉のまちづくりと地域社会の将来	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【学びに向かう力、人間性等】 ワークシート				7
	定期考査			○	○		1
	第5編 第2章多様な社会支援制度 【知識及び技能】 社会保障制度、高齢者福祉、介護保険、地域包括ケアシステムについて理	・地域医療 ・教育 ・雇用、就労支援 ・住宅、居住サポート ・司法と福祉の連携	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【学びに向かう力、人間性等】				

	解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・権利擁護と成年後見制度	ワークシート				6
	定期考査			○	○		1
3 学 期	第5編 第3章社会福祉の将来と福祉の担い手 【知識及び技能】 日本における今後の福祉の課題について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・新しい社会連携と福祉の推進 ・利用者支援と消費者保護 ・多様なニーズを抱える人々への支援 ・福祉・介護人材の養成とキャリア形成 ・日本における社会福祉の役割と新しい方向	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【学びに向かう力、人間性等】 ワークシート	○	○	○	5
	定期考査			○	○		1
							合計
							35

高等学校 令和5年度（3学年用） 教科

科目 コミュニケーション技術

教科：福祉

科目：コミュニケーション技術

単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 4組

使用教科書：（コミュニケーション技術）

教科 福祉

の目標：

【知識及び技能】福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に着けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性をはぐくみ、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発達に主体的かつ共に取り組む態度を養う。

科目 コミュニケーション技術

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
介護福祉場で活用できるコミュニケーションにおける基礎的な知識と技術を習得する。	サービス利用者やその家族を取り巻く状況を理解し、それに応じたコミュニケーションを実践する力を養う。	サービス利用者やその家族との信頼関係構築および専門職としてのよりよい関係・チームを構築を目指し、コミュニケーションが図ることができる姿勢と態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	介護におけるコミュニケーションの意義と役割 【知識及び技能】 介護従事者としての人間関係形成に必要なコミュニケーションの意義と役割について理解する 【思考力、判断力、表現力等】 介護従事者としての人間関係の形成に必要なコミュニケーション実践について考察する 【学びに向かう力、人間性等】 介護従事者としての自己理解を深め、利用者を含めた他者理解を深める 定期考査	指導事項 ・人間理解 ・人間関係 ・自己理解 ・他者理解 ・自己開示 ・自己開示 教材 ・ワークシート等	【知識・技能】 介護におけるコミュニケーションの意義と役割を理解し、意図的にコミュニケーション実践を行うための知識を身に付ける。 【思考・判断・表現】 介護におけるコミュニケーションの意義と役割を理解し、意図的にコミュニケーション実践を行うための方法について考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 介護におけるコミュニケーションの意義と役割を理解し、意図的にコミュニケーション実践を行うための方法を実践につなげようとしている。	○	○	○	9
	定期考査			○	○		1
	介護場面におけるコミュニケーションの基本的技術の理解 【知識及び技能】 介護場面におけるコミュニケーションの基本的な技法を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 介護場面におけるコミュニケーションの基本的技術を理解し、利用者の状態に合わせた技術を考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 介護場面におけるコミュニケーションの基本的技術を理解し、利用者とのよりよい関係構築につなげる方法を考察できる 定期考査	指導事項 ・言語的コミュニケーション ・非言語的コミュニケーション ・傾聴 ・受容 ・共感 ・効果的な質問 教材 ・ワークシート等	【知識・技能】 介護場面において必要な人間関係形成を図るためのコミュニケーションに関する知識や技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 介護場面において必要な人間関係形成を図るためのコミュニケーションのあり方を、根拠を持って考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 介護場面において必要な人間関係形成を図るためのコミュニケーションについて、主体的かつ協働的に考え実践しようとする。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
2 学期	サービス利用者に応じたコミュニケーション 高齢者・視覚障害・聴覚障害・言語障害 【知識及び技能】 加齢、各障害がコミュニケーションに及ぼす影響を理解し、コミュニケーションに必要な知識を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 加齢、各障害がコミュニケーションに及ぼす影響を理解し、利用者に合わせたコミュニケーションの方法を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 加齢、各障害がコミュニケーションに及ぼす影響を理解し、利用者にとってのコミュニケーションの意味を考察する。 定期考査	指導事項 ・加齢による心身の変化 ・障害とコミュニケーション ・障害がもたらす二次障害 ・先天障害 ・中途障害 ・聴覚障害とコミュニケーション ・視覚障害とコミュニケーション ・言語障害とコミュニケーション 教材 ・ワークシート等	【知識・技能】 加齢、各障害がコミュニケーションに及ぼす影響を理解し、関連する知識や技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 加齢、各障害がコミュニケーションに及ぼす影響と生活における課題を発見し、創造的に解決に向けて考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 加齢、各障害がコミュニケーションに及ぼす影響や生活における課題を理解し、利用者の生きがいや生活向上に繋がるコミュニケーションを考え、実践しようとする。	○	○	○	18
	定期考査			○	○		1
	サービス利用者に応じたコミュニケーション 運動機能障害、知的障害、認知症とその家族 【知識及び技能】	指導事項 ・言語障害 ・運動機能障害 ・言語障害、運動機能障害のある人の生活	【知識・技能】 加齢、各障害がコミュニケーションに及ぼす影響を理解し、関連する知識や技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】				

[illegible]

高等学校 令和5年度（3 学年用） 教科 福祉 科目 介護過程

教 科： 福祉 科 目： 介護過程 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 4 組

使用教科書：（ 実教出版：「介護過程」 中央法規：「介護過程」 ）

教科 福祉 の目標： 福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、福祉を通じ、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】福祉分野について、体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会生活を目指して学び、発展的、協働的社会に取り組める態度を育む。

科目 介護過程 の目標： 利用者の尊厳の保持、自立生活支援の観点から介護過程の意義と役割を理解する。利用者の生活課題の解決に向けて、介護職として望ましい考えのもと介護過程を展開できる能力と態度を育てる。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
福祉に関する教科で学んだ知識と技術を統合し、個別支援の意義、役割を理解するとともに生活における継続的な支援が行えるよう技術力の向上できる。	個別的な生活支援を展開する上で、生活導線や身体、精神面の変容に気づける観察力を高め、専門用語を用いた記録（表現）力を養う。	生活を支援する専門職として、生活上の課題に気づくことができ、計画を修正展開できる解決力を習得できる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 介護過程が目指すもの P8 第1節 根拠に基づいた生活支援 第2節 介護過程の意義 第3節 介護過程の目的・基本視点 【知識及び技能】 生活支援に関する技術は根拠にもとづいて行われていることを理解できる 【思考力、判断力、表現力等】 個々によって、生活スタイルが異なるため、ニーズに沿った支援に着目する 【学びに向かう力、人間性等】 生活支援を行ううえで、生活動作から求められる支援を考察できる。	指導事項 ・ 基本的生活を理解できる ・ 個別ケアの必要性が理解できる 教材 実教：介護過程 中央法規：介護過程 ・ 事例等 ・ PCの活用 等	【知識・技能】 根拠に基づいた介護実践には、利用者の視点での解決を目的とした介護過程が必要であることを理解する 【思考・判断・表現】 介護過程における各展開過程を理解すると共に計画自体の意義について考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 介護過程の目的を日本国憲法の基本的人権、幸福追求権を根拠に理解するとともに、実際に求められる視点について考察する。	○	○	○	4
	介護過程の展開 実教P22 第1章 情報収集とアセスメント 第2章 生活課題と目標設定 【知識及び技能】 利用者の方にかかわる情報収集の取り方や意図的なコミュニケーションを用いた収集方法の違いが理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 生活に関する課題を整理するために関連図作りを行い考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 日々の状態を把握するための動作、観察した現状を記録へ繋げる。	指導事項 ・ 介護過程の意義、目的を理解させる ・ 意図的な情報収集の取り方 ・ 情報から生活背景がわかる ・ 生活課題を捉える 教材 実教：介護過程 中央法規：介護過程 ・ 事例等 ・ PCの活用 等	【知識・技能】 利用者の方にかかわる情報収集の取り方や意図的なコミュニケーションを用いて収集方法の違いを習得する。 【思考・判断・表現】 生活に関する課題を整理するために、色別を用いて関連図作りを行い整理することで、課題が明確化できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の学習時から、様々な書式に合わせた表現・専門用語を用いた文章を書き、構成力を培うことができる。	○	○	○	10
				○	○	○	4
	定期考査			○	○	○	1
2 学 期	介護過程の展開 実教P48 第3章 介護計画の立案 第4章 課題計画の実施と評価 【知識及び技能】 生活全体を把握し、課題を整理するための解釈、統合、計画立案の仕組みがわかる。 【思考力、判断力、表現力等】 生活に関する課題、直接、間接など課題に優先順位を付けた計画の考察ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 計画に沿った支援から得られた、情報を記録へ繋げられ考察できる。	指導事項 ・ 介護過程の意味を理解させる ・ 利用者の願いと必要性の区分について演習等を用いて具体的に理解させる ・ 専門職としての情報共有、連携をとる必要性がわかる。 教材 実教：介護過程 中央法規：介護過程 ・ 事例等 ・ PCの活用 等	【知識・技能】 生活全体を把握し、課題を整理するため解釈、統合、計画立案の一連の仕組みが理解できる。 【思考・判断・表現】 生活に関する課題に命に関連する課題などに優先順位を付けられ計画が立案できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 計画に沿った支援から得られた情報を記録し現状に沿った立案ができる。	○	○	○	12
				○	○	○	15
	定期考査			○	○	○	1
	介護過程の実践 実教P78 第1章 介護過程の展開の実際 ・ 再アセスメント ・ 修正 【知識及び技能】 日々の生活上の課題を観察や記録から情報取るため、修得力を高め	指導事項 ・ 介護計画に基づいた支援の展開が理解できる。 ・ 日々の支援内容を記録に繋がることわかる。 教材 実教：介護過程	【知識・技能】 日々の生活上の課題を観察や記録から情報を取るための修得力が習得できる。 【思考・判断・表現】 生活に関する課題目標に優先順位を付けることができ、サービス提供時の様子を専門的視点、思考、過程を表現することができる。	○	○	○	16

3 学 期	る。 【思考力、判断力、表現力等】 日々の生活から課題が変わっていくことがわかり、支援時の些細な変容に気づけ、記録に繋がられる。 【学びに向かう力、人間性等】 情報共有し計画を遂行するための関係性を築けるよう、日々の生活のなかから観察力、洞察力を磨ける。	中央法規：介護過程 ・事例等 ・PCの活用 等	【主体的に学習に取り組む態度】 計画に沿った支援から得られた、情報を記録へ繋げ、展開ができ修正に繋がられる。				
	定期考査			○	○	○	1
							合計
							70

高等学校 令和5年度（3学年用） 教科 福祉 科目 介護総合演習・介護実習

教科：福祉 科目：介護総合演習・介護実習 単位数：6 単位

対象学年組：第3学年 4組～組

使用教科書：中央法規「介護総合演習・介護実習」

教科 福祉 の目標：

- 【知識及び技能】介護従事者として職業倫理及び基礎的・基本的意義と技能を習得する
- 【思考力、判断力、表現力等】各科目の学習で得た知識を生かし、対象者を適切にアセスメントして関わるができる
- 【学びに向かう力、人間性等】様々な対象者に対するコミュニケーションを積極敵に図り、介護従事者に必要な人減関係の構築を図る
- 科目 介護総合演習・介護実習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
介護従事者としての職業倫理及び基礎的・基本的な知識と技術を活用した介護支援が選択できるようになる	職員の方や利用者の方とのかかわりを通じて介護の実際を学び、積雪な態度と言葉使いで他者と関係性を育み、適切な表現を用いて実習記録に記入できる	施設実習での様々な場面において、なぜそのような支援が必要なのか、介護の本質は何かについて深く理解しようと努め、関心を持って実習に挑んでいる

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
	介護実習事前指導	実習の手引き 実習の心得 実習記録の書き方 実習の留意点等 テキスト・教科書・手引き等を用いて指導	福祉の見方、考え方を働かせ、実践的・体験的な実習目標を心得ている 介護実習の留意点を正しく理解し、実践できている 学習に対する積極性がみられる	○	○	○	4
	介護実習	施設実習（特別養護老人ホーム） 巡回指導を定期的に実施 実習指導者との連絡調整	福祉の見方、考え方を働かせ、実践的・体験的な介護実習を積極的に行えた 介護及び支援の実践に関連する技術を身に付けた 安全で健全な介護実習を実施し、適切に振り返ることができた	○	○	○	140
	5日間の施設実習	施設実習（特別養護老人ホーム） 巡回指導を定期的に実施 実習指導者との連絡調整	福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な介護実習を積極的かつ安全に実施できた コミュニケーションを積極的に活用し、利用者理解に努めた 専門用語を活用し、正しく記録できた	○	○	○	35
2 学 期	介護実習事後指導	実習成果のまとめ 成果発表会に向けての準備	介護実習での学びを生かし、健全な福祉社会に向けた学びがあったか 介護実習を通じた学びを適切に振り返り、専門用語を用いてまとめることができたか 今後の学習及び介護実習につなげる学びを適切にまとめているか	○	○	○	28
	介護実習事後指導	実習成果報告会の実施	介護実習での学びを生かし、健全な福祉社会に向けた学びがあったか 介護実習を通じた学びを適切に振り返り、専門用語を用いてまとめることができたか 今後の学習及び介護実習につなげる学びを適切にまとめているか	○	○	○	3
3 学 期							
							合計 210

高等学校 令和5年度（3学年用） 教科 福祉 科目 介護福祉基礎

教科： 福祉 科 目： 介護福祉基礎 単位数： 1 単位

対象学年組：第 3 学年 4 組

使用教科書：（ 介護福祉基礎 実教出版 ）

教科 福祉 の目標： 介護の意義と役割を理解し、介護を適切に行う能力と態度を身に付ける。

- 【知識及び技能】 福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 職業人として必要な豊かな人間性を育み、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。

科目 介護福祉基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
介護福祉の実践において必要な知識について体系的・系統的に理解をしているとともに、関連する技術を身に付けている。	介護福祉に関する諸問題を発見し、援助者としての合理的かつ創造的に解決をする力を身に付けている。	より良い介護を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	介護における安全確保と危機管理 ・安全確保と事故対策 ・感染症対策 【知識及び技能】 リスクマネジメントを学ぶ 感染症対策を学ぶ 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	介護の意義と役割を理解し、安全に介護を適切に行う能力と態度を身に付ける。 【教科書、ワークシート、端末】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	4
	まとめ学習 介護の意義と役割 ・尊厳を支える介護 【知識及び技能】 尊厳について理解する 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	介護の意義と役割を理解し、尊厳を踏まえた介護を適切に行う能力と態度を身に付ける。 【教科書、ワークシート、端末】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1
	まとめ学習 介護従事者の倫理 【知識及び技能】 倫理について理解する 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	介護の意義と役割を理解し、倫理を踏まえた介護を適切に行う能力と態度を身に付ける。 【教科書、ワークシート、端末】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	4
	まとめ学習 介護を必要とする人の理解と介護 ・高齢者の生活と介護 【知識及び技能】 高齢者の特徴や活動等を理解し、介護の在り方を学ぶ 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	介護の意義と役割を理解し、生活支援を踏まえた介護を適切に行う能力と態度を身に付ける。 【教科書、ワークシート、端末】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1
2 学 期	まとめ学習 介護を必要とする人の理解と介護 ・障害者の生活と支援 【知識及び技能】 障害を理解し、具体的な生活支援を学ぶ 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	介護の意義と役割を理解し、障害を踏まえた介護を適切に行う能力と態度を身に付ける。 【教科書、ワークシート、端末】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1
	まとめ学習	介護の意義と役割を理解し、自立	【知識・技能】				

3 学 期	介護を必要とする人の生活環境 ・介護と環境 ・自立に向けた介護 【知識及び技能】 生活と環境の関係性を理解し、自立に向けた支援を学ぶ 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	支援を踏まえた介護を適切に行う能力と態度を身に付ける。 【教科書、ワークシート、端末】	ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1
	まとめ学習 介護福祉の担い手 ・介護従事者を取り巻く状況 ・介護従事者の役割 【知識及び技能】 介護福祉士誕生の背景を理解し、役割について考察する 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	介護の意義と役割を理解し、介護を適切に行う能力と態度を身に付ける。 【教科書、ワークシート、端末】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1
	まとめ学習 介護福祉サービスの概要と連携 ・介護サービスの概要 ・介護における連携 【知識及び技能】 介護保険制度を理解し、多職種連携を学ぶ 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	介護の意義と役割を理解し、多職種連携を踏まえた介護を適切に行う能力と態度を身に付ける。 【教科書、ワークシート、端末】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	2
							合計
							35

高等学校 令和5年度（3学年用） 教科 福祉 科目 社会福祉基礎
教科 福祉 科目 社会福祉基礎
対象学年組：第 3 学年 4 組
使用教科書：（ 社会福祉基礎(実教出版) ）

教科 福祉 の目標： 福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、福祉を通じ、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】 社会福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする

【思考力、判断力、表現力等】 社会福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 職業生活を営むために必要な豊かな人間性を育む。自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 社会福祉基礎 の目標： 福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会福祉の向上に必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
福祉の基礎を学習し、社会に望まれるスペシャリストの育成を目指しながら、各自の進路実現に備える。	・考え抜く力（課題発見力・計画力・創造力）を養う。・未来のなりたい自分を創造する。・チーム力（発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力）を養う。	演習を交え、基本的な技法を用いて症例・事例を体験展開し、社会に適応出来る能力（覚悟と基礎力）を身に付け、コミュニケーション能力を高める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第4編 第1章コミュニケーションの基礎 【知識及び技能】 コミュニケーションの概念や対象に応じたコミュニケーション技術について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・コミュニケーションの意義・役割 ・コミュニケーションの基礎的方法	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【学びに向かう力、人間性等】 ワークシート	○	○	○	3
	第4編 第2章援助における人間関係の形成 【知識及び技能】 対人援助における人間関係の形成について、専門職として必要な知識を身に付け、理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・傾聴、受容、共感の姿勢 ・利用者理解と援助者の自己理解	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【学びに向かう力、人間性等】 ワークシート	○	○	○	3
	定期考査			○	○		1
	第4編 第3章社会福祉援助活動の概要 【知識及び技能】 個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術の役割と特徴について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・個別援助技術の活用と福祉活動 ・集団援助技術の活用と福祉活動 ・地域援助技術の活用と福祉活動 ・社会福祉援助活動の発展	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【学びに向かう力、人間性等】 ワークシート	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
2 学 期	第5編 第1章地域福祉の進展と地域の将来 【知識及び技能】 地域福祉活動やボランティア、非営利民間福祉活動の役割と意義について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・地域福祉活動とボランティア ・非営利民間福祉活動 ・福祉のまちづくりと地域社会の将来	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【学びに向かう力、人間性等】 ワークシート				7
	定期考査			○	○		1

2 学 期	第5編 第2章多様な社会支援制度 【知識及び技能】 社会保障制度、高齢者福祉、介護保 険、地域包括ケアシステムについて理 解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを 深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自ら を客観的に振り返る。	・地域医療 ・教育 ・雇用、就労支援 ・住宅、居住サポート ・司法と福祉の連携 ・権利擁護と成年後見制度	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【学びに向かう力、人間性等】 ワークシート				7
	定期考査			○	○		1
3 学 期	第5編 第3章社会福祉の将来と福祉の担い手 【知識及び技能】 日本における今後の福祉の課題につい て理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを 深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自ら を客観的に振り返る。	・新しい社会連携と福祉の推進 ・利用者支援と消費者保護 ・多様なニーズを抱える人々への支援 ・福祉・介護人材の養成とキャリア形成 ・日本における社会福祉の役割と新しい方向	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【学びに向かう力、人間性等】 ワークシート	○	○	○	5
	定期考査			○	○		1
				○	○		合計 36

高等学校 令和5年度（3学年用） 教科 福祉 科目 生活支援技術

教科：福祉 科目：生活支援技術 単位数：3 単位

対象学年組：第3学年 4組～ 組

使用教科書：（中央法規 医療的ケア）（ ）

教科 福祉 の目標：

【知識及び技能】医療的ケアを安全に実践できる知識・技術を身につける

【思考力、判断力、表現力等】医療的ケア対象者に関する課題を発見し、倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う

【学びに向かう力、人間性等】豊かな人間性を育み、よい社会の構築を目指して自ら学び、発展的かつ協働的に取り組む態度を育む

科目 生活支援技術 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
こころとからだのしくみの知識を踏まえ、医療的ケアを必要とする対象者の特徴に合わせ、根拠をもって安全かつ正確な技術を身に付けられる	技術支援時の手順や一連の動きを専門用語を適宜活用することができ、留意点を踏まえた適切な判断力及び表現力をを育むことができる	他者と探究的に課題に取り組み、課題の解決に向けた取り組みを自ら積極的に行い、より良い関係性を発展的に行える

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	喀痰吸引（鼻腔）演習 【知識及び技能】医療的ケアに関する知識を理解し習得できる 【思考力、判断力、表現力等】学習を通じた気づきや学びを適切な専門用語を用いて表現できる 【学びに向かう力、人間性等】他者と協調し、探究的活動を積極的に行える	・演習を通じた技術の習得 ・技術定着テスト（4回）及び修了テスト（1回）	【知識・技能】対象者の身体的特徴を理解し寝衣交換にける留意点及び安全安楽な技術を行っている 【思考・判断・表現】知識を活用して適切に判断し、演習を通じて気づきや振り返りを専門用語を用いて表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】課題の提出期限を厳守し、留意点を含めた正しい手順を他者と協働しながら積極的に行える。	○	○	○	15
	喀痰吸引（口腔内） 【知識及び技能】医療的ケアに関する知識を理解し習得できる 【思考力、判断力、表現力等】学習を通じた気づきや学びを適切な専門用語を用いて表現できる 【学びに向かう力、人間性等】他者と協調し、探究的活動を積極的に行える	・演習を通じた技術の習得 ・技術定着テスト（4回）及び修了テスト（1回）	【知識・技能】対象者の身体的特徴を理解し医療的ケアにける留意点及び安全安楽な技術を行っている 【思考・判断・表現】知識を活用して適切に判断し、演習を通じて気づきや振り返りを専門用語を用いて表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】課題の提出期限を厳守し、留意点を含めた正しい手順を他者と協働しながら積極的に行える。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
	喀痰吸引（気切カニューレ） 【知識及び技能】医療的ケアに関する知識を理解し習得できる 【思考力、判断力、表現力等】学習を通じた気づきや学びを適切な専門用語を用いて表現できる 【学びに向かう力、人間性等】他者と協調し、探究的活動を積極的に行える	・演習を通じた技術の習得 ・技術定着テスト（4回）及び修了テスト（1回）	【知識・技能】対象者の身体的特徴を理解しシャワー浴・機械浴・手浴・足浴にける留意点及び安全安楽な技術を行っている 【思考・判断・表現】知識を活用して適切に判断し、演習を通じて気づきや振り返りを専門用語を用いて表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】課題の提出期限を厳守し、留意点を含めた正しい手順を他者と協働しながら積極的に行える。	○	○	○	15
	医療的ケア・法的根拠・ 【知識及び技能】医療的ケアに関する知識を理解し習得できる 【思考力、判断力、表現力等】学習を通じた気づきや学びを適切な専門用語を用いて表現できる 【学びに向かう力、人間性等】他者と協調し、探究的活動を積極的に行える	・演習を通じた技術の習得 ・技術定着テスト（4回）及び修了テスト（1回）	【知識・技能】対象者の身体的特徴を理解し医療的ケアにける留意点及び安全安楽な技術を行っている 【思考・判断・表現】知識を活用して適切に判断し、演習を通じて気づきや振り返りを専門用語を用いて表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】課題の提出期限を厳守し、留意点を含めた正しい手順を他者と協働しながら積極的に行える。	○	○	○	15
	定期考査			○	○	○	1
2 学 期	経管栄養（鼻腔） 【知識及び技能】医療的ケアに関する知識を理解し習得できる 【思考力、判断力、表現力等】学習を通じた気づきや学びを適切な専門用語を用いて表現できる 【学びに向かう力、人間性等】他者と協調し、探究的活動を積極的に行える	・演習を通じた技術の習得 ・技術定着テスト（4回）及び修了テスト（1回）	【知識・技能】対象者の身体的特徴を理解しベッド上洗髪にける留意点及び安全安楽な技術を行っている 【思考・判断・表現】知識を活用して適切に判断し、演習を通じて気づきや振り返りを専門用語を用いて表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】課題の提出期限を厳守し、留意点を含めた正しい手順を他者と協働しながら積極的に行える。	○	○	○	16
	定期考査			○	○	○	1
	経管栄養（胃ろう・腸ろう） 【知識及び技能】医療的ケアに関する知識を理解し習得できる 【思考力、判断力、表現力等】学習を通じた気づきや学びを適切な専門用語を用いて表現できる 【学びに向かう力、人間性等】他者と協調し、探究的活動を積極的に行える	・演習を通じた技術の習得 ・技術定着テスト（4回）及び修了テスト（1回）	【知識・技能】対象者の身体的特徴を理解し医療的ケアにける留意点及び安全安楽な技術を行っている 【思考・判断・表現】知識を活用して適切に判断し、演習を通じて気づきや振り返りを専門用語を用いて表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】課題の提出期限を厳守し、留意点を含めた正しい手順を他者と協働しながら積極的に行える。	○	○	○	16
	医療的ケア	・国家試験対策	【知識・技能】				

3 学 期	【知識及び技能】医療的ケアに関する知識を理解し習得できる 【思考力、判断力、表現力等】学習を通じて気づきや学びを適切な専門用語を用いて表現できる 【学びに向かう力、人間性等】他者と協調し、探究的活動を積極的に行える	・ワークシートを用いた知識の理解 ・パワーポイント、一人一台端末を用いた学習 ・演習を通じたグループ討議 ・グループごとの探究活動と学習内容を発表し合い共有する	対象者の身体的特徴を理解し医療的ケアにける留意点及び安全安楽な技術を行っている 【思考・判断・表現】知識を活用して適切に判断し、演習を通じて気づきや振り返りを専門用語を用いて表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】課題の提出期限を厳守し、留意点を含めた正しい手順を他者と協調しながら積極的に行える。	○	○	○	11
	合計						105